

## <ラクシアーのお宝>シリーズ リプレイ 第一グループ編 第1話「夢の始まり～巨大海賊船、現る！～」

### ・前書き

皆様初めまして。今回は本書をご覧頂きありがとうございます。この度キャンペーンを始めた新米GMのペンタコスと申します。

TRPGを初めて早三ヶ月。PLとしてのスキルもままならないままGMなんて出来るのか、等と思いつつも「なるようになる体当たり理論」でやるだけやってみたセッションを、僭越ではありますがリプレイという形で残してみたいと思います。セッションをやる上で、GMの裁定が甘かったりミスったりノリで変えちゃったりしますが、そこは笑いながら多めに見ていただけると幸いです(汗)

…とりあえず、リプレイってどう作るのさ？などと思いつつも、そこは直感とひらめきと体当たりで。人間、その気になればなんとかなる物です、多分(笑)

尚、あらすじや登場人物に関しては、TRPG ONLINE WIKI様の<ラクシアーのお宝>シリーズの項目に掲載してあります。そちらも是非ご覧になっていただければと思います。ではでは、初心者GMの初セッション！どうなりますやら…始まり始まり

### ・セッション開始&自己紹介

GM:では皆様準備ができ次第、イントロにいきますよ～

PL-H:よろしくお願ひします^^

PL-Y:よろしくお願ひしまーす

PL-Do:よろしくお願ひします

PL-Da:よろしくお願ひします！

PL-i:はい。よろしくお願ひしまーす！

GM:さて皆様。改めまして、今回はセッションへのご参加ありがとうございます

GM:なにぶん初体験故に至らぬ所もあると思いますが、精一杯頑張ります！皆で楽しみましょう！

PL-H:こちらこそ、卓をたていただきありがとうございます。

PL-Y:はい

GM:今回の舞台は、“橋の国”ダーレスブルグ公国周辺。

GM:皆は、この国にある小さな冒険者の店「桜舞うそよ風亭」で集まったPTです。

GM:では、ここでPCの自己紹介と参りましょう。

GM:上から順番に、**レンドル**からでよろしいですか？

**レンドル**:はい

GM:ではRPで！張り切ってどうぞー！

**レンドル**:「わ、私は**レンドル**。旅のマギテックで、シューターだ…です。(小声)」

**レンドル**:「あ、あまり、人としゃべることになれておらず、仮面などをつけている…いますが…き、気にせず…な、仲良くしろ…してください。(ホッ)」

**レンドル**:以上です。よろしくお願ひします。

GM:パチパチパチ～☆

**ヴァン**:>**レンドル**「面白いしゃべり方だな！よろしくな。」

このSWというゲーム屈指のダメージソースと名高いマギシューさん。この卓でどんな暴れようを見せるやら。楽しみです。

**GM:**ではつづいて**トゥーズ**！お願いします！

**トゥーズ:**サーイエッサー

**トゥーズ:**「ええっと**トゥーズ**、名前。」

**トゥーズ:**「見ての通りタビットだ。野兎ではないぞ」

**トゥーズ:**「妖精使いでもある。同種族は堅苦しい奴が多いが、私は適当にそこらを探索する方が好きだな。なので面白いことがあるとすぐに突っ込むぞ。うむ」

**トゥーズ:**「セージによる知力判定にも自信があるぞ。こんなところだ。よろしくな」

**GM:**パチパチパチ～☆

**アーシィ:**>**トゥーズ** **アーシィ**は もふもふ したそうに そちらを みている！▼

**レンドル:**「よ、よよよ…よろしく」

**ヴァン:**>**トゥーズ** 「魔法使いか、期待しているぜ！」

**トゥーズ:**というわけでよろしくおねがいします

タビットって可愛いよねえ…卯年のGMは親近感を持たざるを得ない！何をしてももふもふしたら許してしまいそうだ(笑)

**GM:**では次は**アル**！お願いします！

**アル:**「名前は…… 本名が長く面倒だから**アル**ドラ・リーガって名乗ってる。適当に**アル**でもリーガでも呼んでくれ」

**アル:**「俺は放浪の旅をしてるが… まあ、路銀も少ないのでな冒険者も兼ねている」

**アル:**「戦闘には自信があるし、この中じゃ筋力だけは負けない自信がある」

**アル:**「あとは… 女性関係なんだが運が悪いのかよく付きまとわれる」

**アル:**(女性の命を救ったりしてるから)

**アル:**「結構告白とか受けたが… 相思相愛じゃない限り俺は受けないがな」

**アル:**「まあ、よろしくやらせてもらう」以上です

**GM:**パチパチパチ～☆

**ヴァン:**>**アル** 「強そうだな…これは負けてられないな。」

タビットとは対照的なパワーファイター、リルドラケン！渋い…渋いぞ

**GM:**ではではお次は**ヴァン**！お願いします！

**ヴァン:**「俺の名前は、**ヴァン**・シュトゥルム、**ヴァン**と呼んでくれ。」

**ヴァン:**「見ての通り、斧を使うが、器用な仕事もちよっとはこなせる。」腰のベルトにハンドアックスを4本下げている

**ヴァン:**「行方の知れなくなった親父を探して旅している。当てはないが、俺が高みを目指せば、それだけ親父に近づける…そんな気がするんだ。」

**ヴァン:**「そんなところだ。よろしくな！」

**GM:**パチパチパチ～☆

一同:「よろしく～！」

**ヴァン**は頼れるまとめ役になりそうな予感。最初からこの気の配りよう…GMも見習いたいものです

**GM**:さて、ではラスト！**アーシィ**行きましょう！

**アーシィ**:「**アーシア**・クライベルだ。気軽に**アーシィ**でいいぞ」

**アーシィ**:「私は修行のために、この地までやってきた次第だ」

**アーシィ**:「この身にかけて、君達を守り抜く覚悟だ、よろしく」以上で一す

**GM**:パチパチパチ～☆

**ヴァン**:「**アーシア**も斧か、分かってるね～！」

**トウズ**:「よろしく頼む。みな筋力が高いな、私はカラキシだ。是非頼りたい！」←筋力ポーナス1

このPTの紅一点**アーシィ**さん。精神抵抗の高いシャドウが前衛壁役って…堅いなあ

**GM**:うんうん、皆良い感じに仲良くなってきましたね！では、そのままの勢いで物語に入っていくよ～

**ヴァン**:おk～

### ・巨大な船、その名はショーウィ・ガレオン！

**GM**:時刻は朝。皆さんは朝食を取りながら、依頼を求めて話し合いをしています。

**レンドル**:>**ヴァン** (プレイヤー発言) 投石という手もww

**GM**:ちなみに店を切り盛りするのは店主にして看板娘の**コトリ**・ホワイティア。両親を蛮族に襲われて亡くしてから、一人で頑張ってお店をやっている。

**GM**:明るく器量良く料理も美味しい。冒険者達の心のオ**アシ**スだ。

**ヴァン**: (プレイヤー発言) なんだ？かわいいぞ？

**レンドル**: (プレイヤー発言) ろ、露出高めww

**ヴァン**: (プレイヤー発言) どんな依頼でも受けてしまうかもしれない……

**アル**:>**ヴァン** (プレイヤー発言) 気をつけろ、危険な依頼掴まされるぞ

**レンドル**: (プレイヤー発言) それがデスシナリオでも……www

**アーシィ**: (プレイヤー発言) きっと、**アーシィ**は心底いいなと思っているよ、この格好

**レンドル**:**コトリ**「近くにドラゴンが現れたのっ！倒してきて～……ねっ♪」ww

セッション時(リプレイ編集時も含め)は、**コトリ**のイラスト描いてなくて拾い物だったんですがこの人気である。…やはり**GM**のセンスに狂いは…って**コトリ**はそんなヒドイこと言わないやい！！

**GM**:さて、では朝食を摂っている所から、RPを始めていただきたいと思います。

**ヴァン**: (プレイヤー発言) 一人でか……おつまみはポテチだけでも文句言わないよ。

**レンドル**:店の隅っこで壁を向いてひっそり仮面はずして、サラダ食べてますww

**アル**:カウンターにでも座って、適当に注文したの食べてる

**トウズ**:ガツガツ食べてます。朝から。身の丈に合わない量を。

**ヴァン**:>**アル** >**レンドル** 「どうした？せっかく一緒に仕事するんだし、こっちで食おうぜ？」

**レンドル**:「さ、さすがに、こ、ここで顔が指すことは、な、なはないと思うが……(ホリ)←元拷問官 & 死刑執

行人だったので顔指すと、石投げられてましたwww

**アル:**>**ヴァン**「ああ？ 俺は低血圧なんだ… すこし一人にしてくれ…」

**ヴァン:**「テンション低いな～」独り言

**アーシィ:**「**コトリ**殿、このおかずを、あと十皿くれないか？」

**コトリ:**「あ、はい！ ちょっと待っててくださいね」にこつ

**ヴァン:**>**アーシィ** >**トゥーズ**「あんたらは豪快だね！ そうでなくちゃあね。」

**レンドル:**仮面装着！「食事はもう済んだ… 済みました。…って10皿…ど、どこにはいるんだ！」

**アル:**「**コトリ**… 酒を一杯くれ… 気つけて飲んでいく…」

**ヴァン:**「食事はもういいや、**コトリ**さん、エールお願い！」

**アーシィ:**>**ヴァン** >**レンドル**「このくらいは、腹五分くらいさ」

**コトリ:**「はいはい、順番にお持ちしますから、ちょっとまって下さいね～」

**レンドル:**「お酒…朝から…あ、あ、ありえない」www

いきなり朝食からって難しかったかな…？しかし開始早々自由なPTである

**GM:****コトリ**がカウンターに下がっていったその時

**GM:**皆さんはお店がふっと暗くなった様に見えます

**ヴァン:**「ん？ 曇ったか？」

**レンドル:**「誰ですか？ 明かりを消したのは…？ん？ 違うようですか？」

**アーシィ:**「なんだ？ 暗くなった？」

**GM:**確かめてみると、曇ったのとはまた違った、空全体が陰ったように見えます

**ヴァン:**「ちょっと、窓の外を見てみよう」

**レンドル:**「これは…私を消しに追っ手が！！」びくびくしながら、窓の外に首を伸ばします。

**アル:**「……………」(特に気にしない)

**トゥーズ:**生き生きと自分も外に出よう

**GM:****ヴァン**達が窓の方を見ると、そこには信じられない光景が広がっていました。

**GM:**他にも外を見た人々は、目を疑った事でしょう。

**GM:**ダーレスブルグの上空に、見たこともない巨大な帆船が飛んでいるではありませんか！

**ヴァン:**「おお？！ あれが噂に聞いた飛行船か？」

**トゥーズ:**空を見上げて口半開きにしてホカーン

**アーシィ:**「どうしたんだ？ (そとへ出てきた)な…なんだあれは…！」

**レンドル:**「おお！！ 私、マギテック…わかる。」

**レンドル:**どこの船かマギテックで知識判定とかできますか？

**レンドル:**マギテ+知識Bでやってみますね。

**GM:**おっけー！ 達成値15

**レンドル:**2D6+4 合計:10 <1,5>+4

**GM:**>**レンドル** う～ん…その達成値では情報は開示されないね。

**ヴァン:**「一度乗ってみたいものだな……」

**アーシィ:**「なんで船が…空を飛んでいるんだ…！」

**レンドル:**「いやね…あれ、そういう船です。」

**アル:**「ギャーギャー うるせえな……………」(特に見に行きもしない)

???『あー、あー、マイクテスマイクテス』

**レンドル:**「どこの船か分かりませんが…ん？ 放送？」

GM: 巨大な帆船から、突如として声が聞こえます。

GM: **レンドル**には、それがマジテック技術を用いている事が分かりますね。

**アーシィ**:「なんだこの声は！」

**ヴァン**:「なんだ、あの船からか・・・？」

**レンドル**:「あれは、偉大なるマジテックの技術ですよ！す、すばらしい！」

??? :『白昼堂々すまねえ。俺はキャプテン・ペンティアー。この船、ショーウィ・ガレオンの船長をやっている』

??? :『とある目的で、協力者を募りたい。ん～そうだな・・・』

**レンドル**:「こ、こんな街中に着陸されたら・・・圧死・・・あれ、苦しいらしいですよ・・・(ホッ)」

**トゥーズ**:「な、なに！降りてくるのかあんなでっかいのが！」(オロオロ)

??? :『あの砂漠辺りで良いか。そこに船を泊める。興味がある奴はそこまで来てくれ、詳しい話はそこです』

**レンドル**:「ど、どうやら・・・破壊活動に来たわけではないようです・・・よ？」

**トゥーズ**:「そ、そうか・・・ふう」

**アーシィ**:「砂漠だと？」

GM: そう言い残すと、巨大な船は南下を始め、ダーレスブルグ上空から姿を消しました。

**レンドル**:「あ、新手の人攫いというわけでもないようだし・・・行ってみたい(ホッ)」

**ヴァン**:「これは・・・！ん、諸君。偵察のためにも行ってみるべきだと思うがどうだろうか？」目を輝かせながら

**アル**:「**コトリ**～・・・ 酒はまだか・・・」(完全に船に興味なし)

**レンドル**: 無言で挙手(目キラキラ)ww賛成らしいです

**トゥーズ**:「うむ！そうだな！是非行ってみるべきだ！別にあの船を探索したいわけではなく客観的意見をの下にだな・・・」

**アーシィ**:「ああ、あの船を近くで見たい、是非とも行くべきだろう。だが・・・その前におかずをだな・・・」

**ヴァン**:>**アル**「**アル**、たいへんだ、仕事だぞ、飛空艇だぞ！腕の見せ所だぞ！」

**アル**:「静かにしろ・・・ その首たたっ斬るぞ・・・」

**ヴァン**:「ああ、その剣が飾りじゃないなら行ってみようぜ！」

**アル**:「俺の剣は切れ味が悪いからな・・・ 今はほっといてくれ」

**コトリ**:「あ、**アル**さん・・・ぶれないですね・・・あら？」

GM: 皆が呆気にとられて(?)いると、**コトリ**が身につけている通話のピアスが鳴り出しました。

**コトリ**:「あ、ちょっと待っててくださいね」

GM: **コトリ**は一旦裏手に下がり、何やら話し込んでいます。

**レンドル**:>**アル**「まあ、急がなくてもお酒飲んでから行ってみませんか？」

**アル**:「お前ら本当にテンション高いな・・・ たかが空を飛ぶくらいで・・・」

**レンドル**:「あのキャプテンは協力者を募ってました・・・。つまり、できるだけ多くの使える奴を探すはずだ！！・・・です。」

**ヴァン**:「他のやつに先を越されたらどうするんだよ？帰ってから祝杯でいいじゃないか～」

**アル**:「祝杯じゃなくて俺は気付けた」

GM: しばらくすると、**コトリ**が出てきて、皆さんに声を掛けます。

**コトリ**:「皆さん。たった今、公国から直々に依頼が入りました。どうやら、国中の冒険者の店に、あの船の調査依頼を出してるみたいです。」

**トゥーズ**:「やるぞ！」(首ぐりん)

**ヴァン**:「なんだ、国でも把握できていないのか・・・。」

**レンドル**:「未確認飛行物体ということかぁ！！」

**コトリ**:「ええ、突然の出来事で、政府も混乱してるみたいです」

**ヴァン**:「けど、これで決まりだな！まだ迷うようなら置いて行くぜ！」

**コトリ**:「内容は、可能な限りの情報を入手する事。可能であれば首謀者に接近せよ。報酬は一人500Gです」

**レンドル**:「やっつけろ！じゃないんですね…良かった。ペンティアーって名前だけか…分かってるのは」

**アーシィ**:「どこかの船ではなかったということか…ではほおっておくわけにもいきまい」(席を立つ)

**アル**:「コトリ、依頼は受けてもいいから… 酒を早く… まともに動けん」

**コトリ**:「あああ…アルさんの周りの空気が…ちょっと待っててください」パタパタとエールを用意

**アル**:小声で「多分俺らじゃ勝てないと思うぞ……」

**コトリ**:「アルさん、お待たせしました」エール大ジョッキ

**アル**:ジョッキを一気に飲んで「朝から酒はあまり良くないが気付けにはちょうどいいな」

**アーシィ**:「コトリ殿、食事はまたあとでだ、ちゃんと私の分をのこしておくのだぞ？」

**レンドル**:「捕まえたら拷問でもして、目的を吐かせれば…ゲフンゲフン」

**コトリ**:「(向き直って)では、皆さん。この依頼を受けるという事でいいですね？」

**アーシィ**:「ああ、私は行くぞ」

**レンドル**:「はい！喜んで！！」(某居酒屋風)

**ヴァン**:「当然だ！」

**トウズ**:「異存はない！」

**アル**:「コトリ…… そっちの仕事に熱中するのもいいが宿の運営もお前の仕事だ。客はあまり疎かにしない方がいい」つとってコトリの頭を撫でる

**アル**:「俺は受けるでいいぞ。金はいくらあっても足りないからな」

**コトリ**:「きゃっ！もう、アルさんったら…くすぐったいです」

**レンドル**:「あっ…触ったww」

**アーシィ**:>アル(頬が赤くなる)

**アル**:「??」妹を撫でる感じでやったので特に恋愛感情がない

**コトリ**:「ん…こほん。目的は、悪魔で情報収集です。くれぐれも無理はしないでくださいね？」

**アル**:「こいつらにはムチャである気がする……」

**アーシィ**:「ああ、必ず帰ってくるよ」

**レンドル**:「もちろんあんな代物にケンカ売ろうなんて奴、えーと…いそうですかね？」^^;

**GM**:各々決意を固める背中を、コトリは笑顔で見送ります。

**アル**:小声で「不安になってきた……」

**ヴァン**:「べつに、依頼したいってくらいだから簡単に会えるかもだろ？警戒しすぎだぜ。」

**トウズ**:「うむ！それに友好的に話せば船内を好きに探索させてくれるやもしれんぞ！」

**ヴァン**:「だよな？ひょっとしたら乗せてくれるかも知らないしな！」

**アーシィ**:「なに、危険があれば私が引き受けてやろう」

**レンドル**:「最悪、全員捕らえられて、一生飛行船の乗組員…(ホッ)」

こうして初依頼をこなす事になったPT達。最初が情報収集とかしよぼい？だって…空飛ぶ船潰してこいつか…逃げるね、GMなら(笑)

## ・出会い、そして初陣

**GM**:さて、ここで買い物があるならば、してOKです。ある方は宣言してくださいね～

**アル**:(プレイヤー発言) 特になし。金もなし

**レンドル**:(プレイヤー発言) 買い物はありません^^

**アーシィ**:(プレイヤー発言) 私も金ないし何もなくて一す(残り20)

**トゥーズ**:(プレイヤー発言) 多分大丈夫かなと…

**ヴァン**:(プレイヤー発言) 救命草2つ購入しました

**GM**:了解です！では先に進みましょう。

**レンドル**:了解です^^

**GM**:先程の帆船は、漆黒の砂漠の手前に停泊しているようです。

**レンドル**:(プレイヤー発言) 結構遠くに泊めたんですね^^

ここで**GM**の初心者っぷりが露呈(汗)ダーレスブルグから漆黒の砂漠って結構近いモンだと思ってた…そりゃ世界地図だもんね。近く見えても遠いよね…;

**GM**:ダーレスブルグを出た皆さんは特に危険に見舞われる事もなく、船を間近で目視出来るところまでやってきました

**レンドル**:「おお！すごい！マジツパねえ…でかつ！」ww

**トゥーズ**:「改めてみると…でかいな(うずうず)」

**アーシィ**:「これほどのものが、この世界にあるのか…」

**アル**:「船だけあってデカイな…」

**ヴァン**:「やっと着いたか。」他に人は来てませんか？

**GM**:>**ヴァン** 来てませんね、**コトリ**がいち早く依頼を回してくれたおかげで皆さんが一番乗りの様です。

**レンドル**:「飛行機構だけでもみせやが…見せてください…お願いします。」土下座ww

**アーシィ**:>**レンドル** 「こらこら、船長にあってからだ」

**ヴァン**:(プレイヤー発言) >**GM** 向こうから反応はあるかな？

**GM**:皆が船に近づきながら話していると、またあの声が聞こえます。

??? :『おう、やっと来たか。もう少しで昼寝するところだったぜ』

**レンドル**:「私たちが最速で貴方に会いに来た冒険者ですが…」(もみ手)

**ヴァン**:「困っていることがあるんだろ？話だけでも聞かせ！」

??? :『とにかく上がってこい。詳しい話は顔を合わせて、つてな』

**GM**:その声に答えるかの様に、船から縄はしごが垂れてきます

**ヴァン**:「向こうも無用心だな…けっこうやばい仕事かもしれん…」ぼそっと。

**レンドル**:「む…ここでノコノコ上がっていったら生贄にされる…とかないですか？」

**ヴァン**:「じゃあ、上ってみようか。」

**アーシィ**:「ああ、いくか」

**トゥーズ**:「うむ、行かぬ事には始まん」

**アル**:>**GM** (プレイヤー発言) 翼で船に昇れますか？

**GM**:可能ですよ

**アル**:「先にいってるぞ」翼で船に乗る

**ヴァン**:はしごを上ります。「あ、俺が先だ！！」

アーシィ:「こら、待たないか！」

トゥーズ:「なに！負けんぞ！」続きます

ヴァン:「早い者勝ちだ！」

トゥーズ:「そういうことだ！」

アーシィ: >ヴァン >トゥーズ 「まったく…皆元気だな」

GM: さて、では皆さんが競争しながらはしごを登り終わると、割と広い区画に辿り着きました

ヴァン:「さて、甲板はどんな風になっているのかな…？」

GM: ??? 「お待ちしておりました、皆さん」

ヴァン:「誰かな？」

トゥーズ:「む？声はすれども姿は見えず…(キョキョロ)

GM: 突如として聞こえる声。その方に向くと、そこには1羽の鳥がいました。

GM: ??? 「お初にお目に掛かります。私はキャプテン・ペンティーアのファミリア。名前をエストと申します」

アーシィ:「鳥がしゃべった…だと…？」

ヴァン: >アーシィ 「これぐらいで驚くなアーシィ、こっちにもウサギが居る。」

アル:「鳥が喋るねえ……」トゥーズをちらっと見て「負けたな」と呟く

トゥーズ: >ヴァン >アーシィ 「よくわからんが、そういうことだ！こっちも負けてはいない」

エスト:「…別に張り合っているつもりはないのですが…」

アル:「気にするな。こいつらはそう言う奴らなんだ」

エスト:「そう言っていたいただけと助かります」

アーシィ:「お前がこの船の乗組員か？」

ヴァン:「できれば船長とやらと直接会って話したいが…ダメか？」

エスト:「はい。私はマスターから、貴方たちの案内を任されております。どうぞこちらへ」

アーシィ:「では、行くか」

ヴァン:「付いていくしかないようだな。」足取り軽やか

レンドル:「あの鳥を痛めつけたら、キャプテンも苦しむらしいですよ…ホリ」

アーシィ:「そうなのか…わからないことだらけだな…私もまだまだってことか…」

ヴァン:「そうそう、だから旅をしている。それでいいじゃないか。」

アーシィ:「ああ、違いない」

トゥーズ: >レンドル 「そうなのか？…しかしそれは船から追い出されそうな気もするが…」

レンドル:「も、もちろん…事実をいっただけですから…あくまで…悪魔で」

エスト: >トゥーズ >レンドル 「ご安心ください。私のマスターはそんな些細なはずらはいたしません」

レンドル:「壮大なはずらは…す、するんだ…ホリ」ww

アル:「お前ら…… 何やってんだ…」

GM: 皆がエストの後に付いていくと、程なくして船長室に案内されました

レンドル:「くるまでに船員らしき人は見かけますか？」>GM

GM:「いませんね。人の姿どころか気配すら見えません。」

レンドル:「アンデッドにされて永久船員にされるう～～ww

ヴァン: (プレイヤー発言) 部外者5人をノーチェックで招き入れるか…戦っても勝てないでしょうねw

エスト:「マスター、皆様をお連れしました」

??? :「おう、来た来た」

GM: 皆から背中を向けて船こぎしていた男が、皆に向き直ります。

レンドル:「貴方が、ペンディーア船長ですか？」



**ヴァン**:「はじめまして、キャプテン・ペンティーア！」  
**レンドル**: (プレイヤー発言) うわ…撃たないでww  
**アーシィ**: (プレイヤー発言) うわあ、かっこいい…w  
**トゥーズ**: (プレイヤー発言) や、やられる！

上のPL発言は、キャプテンのイラストを見せた時のリアクション。これまたイラストを描いてなくて拾い物の画像なんですけど…銃を構えてる画でございました

ペンティーア:「ああとすまねえ、つい癖でな」銃を下ろす  
**レンドル**:「そ、その癖は…どうかと…思う(ホリ)」  
**トゥーズ**: (プレイヤー発言) 立ち絵の都合じゃなくてほんとに向けられてた！  
**アル**:「初めまして、キャプテン。フルネームで名乗ったほうがいいかな？」  
**ヴァン**:「すごい船ですね！何人ぐらいで飛んでいるんですか？」  
ペンティーア:「お？そっちから名乗ってくれるとはありがてえな。んじゃ頼むわ」  
**レンドル**:「わ、私は元拷問官のマグシューター。**レンドル**です。」つとさらつとカミングアウトww  
**アル**:「俺の名前は… **アル**リーレ・ドライガ・リーア・ガイエンだ。短くして**アル**と呼んでくれればいい」  
**アル**: (プレイヤー発言) いちいちこう長い名前だと面倒だから**アル**ドラ・リーガです  
**ヴァン**:「俺の名前は、**ヴァン**・シュトウルム、**ヴァン**でいいです。」  
**トゥーズ**:「**トゥーズ**だ…いまサラッとナニか聞こえた気がするが気にしないでおこう」  
**アーシィ**:「私は**アーシィ**・クライベルだ。**アーシィ**でいい。」(拷問官だと?)  
**レンドル**: (おっ、意外とみんなノリアクションだな。こころじゃ別に普通なんだな。拷問官って)ww  
**アル**: (拷問官か… いちいち、聞いたさなくていいか)  
**ヴァン**:>**レンドル** 仮面だけどねw  
ペンティーア:「**レンドル**に**アル**、**ヴァン**、**トゥーズ**に**アーシィ**か…へっ、なかなか良い面構えじゃねえか、気に入った！」  
**レンドル**:「どこにい！！」ww  
ペンティーア:「改めて、俺はキャプテン・ペンティーア。この船“ショーウィ・ガレオン”と海賊団“ヴェルダール”の船長をやってる」  
**レンドル**:「か、海賊う！！甲板からサーベル突きつけられて、下に落とされるんだ…(ホリ)」  
**アル**: (海賊で船長か… あえて言うなら空賊ってかんじだな)  
**ヴァン**: (と、言うことはそれなりの軍団なのだな…)  
ペンティーア:「おいおい、誰もそんな取って食うような事はしねえよ」  
**ヴァン**:「で、何か依頼があるとかですか？」  
**レンドル**:「でも、いいんでヤンスか？ダーレスブルクは国をあげて、討伐に来ちまいますぜ！」(下っ端口調)  
ペンティーア:「あー…俺は協力募りたかっただけなんだがなあ…別に国と事を構えるつもりまねえんだが…」  
**エスト**:「マスター、あのやり方では誤解されて当然です」  
**アル**:「**エスト**、お前も苦労してる気がするな…」  
**エスト**:「恐縮です」丁寧に辞儀  
**レンドル**:「鳥のほうが常識あるって…いったい…」  
**ヴァン**:「協力？この船の乗組員とかですか？」  
ペンティーア:「あー違う違う。んで、肝心の話だったな」  
**レンドル**: (プレイヤー発言) 国からの調査依頼についてここで話てみますか？>ALL

**ヴァン:**>**レンドル** (プレイヤー発言) 向こうの話を聞いておいた後でもいいかなと

**アーシィ:**(プレイヤー発言) いや、今はいいでしょう、話聞いたあとで

**レンドル:**(プレイヤー発言) ですね^^相手の出方みて決めましょうかー

**GM:**んでは調査依頼は伏せる形でおk?

**レンドル:**今は...ということでww

**アーシィ:**(プレイヤー発言) はい、それでおっけーです

**アル:**(プレイヤー発言) だね、伏せるです~。

**GM:**了解です。

**トゥーズ:**異議なしです

**ヴァン:**OKです、向こうを放送に釣られてきたと思っているようだし。

ペンティアー:「で、本題の前に...お前等“ラクシアーのお宝”って知ってるか？」

**ヴァン:**「さあ？」と言ってみんなを見ている。

**アーシィ:**「ラクシアーのお宝？知らないが...」

**レンドル:**「お宝？...始まりの剣のお話ですか？」**トゥーズ**さんお願い！

**トゥーズ:**見識できますか？

**レンドル:**平目でもやってみてOK?

**GM:**おっけーい！

**GM:**【見識判定】(セージ or バードLv+知力B+2D)

**トゥーズ:**2D6+5 合計:15 <5,5>+5

**ヴァン:**2D6 合計:10 <4,6>

**レンドル:**2D6 合計:8 <5,3>

**レンドル:**(プレイヤー発言) **トゥーズ**さん高い！！ww

**アーシィ:**2D6 合計:3 <2,1>

**トゥーズ:**(プレイヤー発言) 兎の知力Bはだてじゃありませんよー！

**アーシィ:**(プレイヤー発言) ほら凶暴だ

**ヴァン:**>**アーシィ** 惜しかった！

**レンドル:**ですねww

**GM:**お、**トゥーズ**が抜いた。では共有メモに載せましょう！

### 【ラクシアーのお宝】

古いおとぎ話に出てくる空想の産物。ラクシア大陸全てと同じ価値があるとされている。

**ヴァン:**(プレイヤー発言) ワンピーs?

**GM:**ちやうねんwww

**トゥーズ:**(プレイヤー発言) セッション終盤になっても明かされないどころかどんどん遠ざかるんですねわかります>ワンピーs

**トゥーズ:**「うむ、聞いたことはあるぞ...だがアレはおとぎ話だろう？」

ペンティアー:「おとぎ話なんかじゃないさ。俺はあるって信じてる」

**レンドル:**「大陸すべてと同じ価値だって！？あ、ありえない...」

ペンティアー:「俺はその“ラクシアーのお宝”を探し求めて、世界中を飛び回ってる。で、とある資料でこちら辺にあるって事が分かってやってきたってわけだ」

**アル:**「そんなもんがねえ...」(やっぱり興味なし)

**レンドル:**「具体的に、私たちに何をさせたいんです？」

**ヴァン**:(プレイヤー発言) 公国へは「夢見がちな船長でした。」と報告しておけばいいのか。

**アーシィ**:「その宝を探せ、ということか？」

ペンティアー:「お前達には、その宝に関する手がかりを調べてもらいたい。その資料は結構解読に時間がかかってな。付きっきりにならなきゃならねえんだよ」

**ヴァン**:「な？それはちょっと専門外だぜ？！」

ペンティアー:「ああ、心配すんな。頼むのは遺跡とかの調査だから。んで、報酬なんだが・・・お前等の協力でお宝が見つかった場合・・・」

**レンドル**:「報酬はお前たちの命！ってのはなしですよ？」

**GM**:ペンティアーが指をぱちんと鳴らすと、空中に金銀財宝の山が現れ、皆の前に降ってきます。

**GM**:じやらじやらじやらじやら～

**ヴァン**:>**トゥーズ** 「なあ、これって本物？幻覚??」

**アーシィ**:「なっ!?!いきなりなんだ!?!」

**レンドル**:「今のは・・・アポト?イリュージョン?どちらにしても高レベルソーサラーなのですね」

**アル**:「すげえな・・・」

ペンティアー:「この船に積んである財宝、占めて10億G。これをお前等に分けてやる」

**トゥーズ**:「どこからともなくルーペを取り出し)むむむ？これはかの有名なチュートリアル海賊団が隠したと言われる金貨！そしてこれは(ry)とりあえず、全部本物っぽいでもいいんですよね？」

**GM**:>**トゥーズ** okです

**ヴァン**:「分けてやる？この中の金貨一枚とか言いませんよね？」

ペンティアー:>「疑り深いやつだな～。ま、生きていく上では大切な事だが・・・海賊の誇りに掛けて言うぜ。10億きっちりくれてやる」

**アーシィ**:「10億だと?とんでもない額だな、いいのかわけても？」

**ヴァン**:「え？全部？ほんとに?！」

ペンティアー:「ああ、ごちゃごちゃ二言は言わねえ・・・それが海賊ってもんだ」

**トゥーズ**:「・・・うむ、全て本物とみて間違いない。しかも総額10億というのも嘘ハツタリではないな・・・」

**ヴァン**:「探索というのは、俺たちだけで？」

ペンティアー:>**ヴァン** 「ん～・・・今の所はお前等だけだな。ま、他の奴に頼んでも宝が見つければ10億は保証する」

**レンドル**:「どれだけの難易度、危険度があるか分からないんですが・・・」

**レンドル**:「せめて、何も関係なかったときの保証金を提示してほしい・・・」

**レンドル**:「・・・つまりですねえ・・・前金とか・・・前金とか・・・前金とか・・・」

**アル**:「はあ・・・ お前少しは自重しろよ・・・」

**レンドル**:「いえ・・・これは正式な契約です。危険だけかぶる可能性だってある！」

**アーシィ**:>**GM** (ずいぶん度量が大きい男だな・・・これが海賊という者なのか・・・)

エスト:「マスター、話が突発的すぎます。皆さん驚いてらっしゃいますよ？」

ペンティアー:「ん～そうだな・・・あ、じゃあこんなんどうだ？」

**GM**:ペンティアーが再びぱちんと指を鳴らす。

**GM**:ペンティアー「お前等の冒険者の店に、俺を連れて行け」

**ヴァン**:「けっこう遠いですよ？」

**GM**:ペンティアー「あ？距離なんか問題ねえよ。ガレオンで近くまで行きゃあいい」

**レンドル**:「その真意を聞きたいですが・・・」

**レンドル**:(プレイヤー発言) ここで国からの依頼話してしまいますか?ww

**アーシィ:**(プレイヤー発言) まだ話さなくていいのではと思います

**ヴァン:**(プレイヤー発言) 未確認船停泊できるところあるかな？

**レンドル:**「それすると…今度は正規軍が砲撃に来ますよ？」ww

ペンティーア:「お前等、見るに冒険者だろ？おおかたダーレスブルグから依頼が来てこの船の調査に来た…どうだ？」

**レンドル:**「はい！正解！！(即答)…あっ！」ww

**ヴァン:**「まあ、それもあります、ついでですけどね。」

**アーシィ:**「さすがにそのくらいはわかっているか…」

**トゥーズ:**「まあそれもある。個人的にな興味もある」

ペンティーア:「へっ、良いねえ。正直なのは嫌いじゃねえ」

**アル:**更にため息「**エスト**…俺の苦勞分かるか…」

**エスト:**「お互い大変そうですね…お察します」

**レンドル:**(プレイヤー発言) 鳥とリルドラの哀愁がww

**トゥーズ:**(プレイヤー発言) 俺たちは、分かりあえた！

ペンティーア:「んで、前金の代わりに、調査を依頼って形で頼むことにする。もちろん報酬はあるし、10億とは別個の金だ。これで文句ねえだろ？」

**アーシィ:**「そもそも10億だけでも受けるつもりだったからな、問題ない」

**レンドル:**「文句はありません。ただ、ガレオンで公国に行くのは落とされそうで…」

ペンティーア:「あ？大砲や魔法の100発程度じゃガレオンは墜ちねえよ、安心しろ」

**レンドル:**「(心の声:どんなガレオンだあ～！！)じゃ、いいです。それで…」w

**ヴァン:**「分かりました！けどお宝を見つけたときの報酬について、ちょっといいですか？」

ペンティーア:「おう、ドンドン聞いてくれ」

**ヴァン:**「俺は10億は要らないから、この船に乗せて欲しい！」

ペンティーア:「お？分かるか？この船の浪漫！」

**ヴァン:**「ああ、今までに持ったことない金言われても、ピンとこない。それよりこっちのほうが面白そうだ！」

**アーシィ:**「この船はすごいものだと思うぞ、なんたって空を飛んでいるからな！」

**GM:****エスト**「…やれやれ。マスターは船談義に夢中ですね。それでは進路をダーレスブルグに」

**GM:****エスト**が移動を開始しようとしたところで

**GM:**『ぎゃあああああああああああ』船の下から、人の悲鳴が聞こえます。

**レンドル:**「悲鳴！？」とっさに銃を構えます。

**アル:**「！？」

**GM:**ペンティーア「あ？なんだってんだ？」

**トゥーズ:**「何事！」

**ヴァン:**「なんだ？」行ってみよう！

**レンドル:**「急いで降りてみましょう！」

**アーシィ:**「船の下からだ！行こう！」

**トゥーズ:**移動力7で必死に追従！

**レンドル:****アル**さんなら窓から飛んで降りれそうですか？

**GM:****エスト**「先程の縄はしごを下ろします。そちらからどうぞ」

**GM:**>**レンドル** 出来ますよ～

**アル:**>**GM** (プレイヤー発言) じゃあ、先に飛んで移動しちゃうね

**レンドル:**(プレイヤー発言) 誰か一人持って降りれますよ～>**アル**さん

**GM:** あ、ガレオンは空中に浮いてますが、**エスト**が気を利かせて、高度を下げてくれます

**アル:** (プレイヤー発言) 行きたい人挙手

**ヴァン:** どのぐらいの高さでしょうか～？

**GM:** 縄はしごで降りれば安全ですし、落ちてもダメとかなないので、安心してどうぞ。

**レンドル:** (プレイヤー発言) **アル**さん…誰を選ぶんだらう…ドキドキww

**アーシィ:** (プレイヤー発言) ノ

**レンドル:** 縄梯子で下りますww

**アル:** **アーシィ**の服を掴んで「**アーシィ**と一緒に先に行ってる」っと言い窓から飛び降り飛んでいきます

**ヴァン:** (プレイヤー発言) >**GM** 低ければ飛び降りようとしていたw

**トゥーズ:** 同じく、えっさほいさと

**ヴァン:** ハシゴで降りよう

**レンドル:** (プレイヤー発言) **アル**さんカッコイイww

**アーシィ:** 「そ…その…よろしくな…///」

**レンドル:** >**トゥーズ** (プレイヤー発言) もこもこと降りる姿も愛らしいww

**GM:** では皆さん、地上に戻りましたね？

**レンドル:** はい^^

**ヴァン:** OKです

**アーシィ:** お…おう

**トゥーズ:** 大丈夫です

**アル:** おk～

**GM:** 地上に降りた皆さんは、そこで蛮族が人を襲っている所を目撃します！！

**レンドル:** 「こんなところに、人！？」

**ヴァン:** (プレイヤー発言) 全く関係ないように思えるが、助けるしか無さそうな～

**アル:** 「蛮族か……」

**アーシィ:** 「あれは蛮族か！行くぞ！」駆け出します

**ヴァン:** 「いいだろう！ちょっと腕前みしておくか！」

**レンドル:** (プレイヤー発言) 敵の数はどんなものでしょう？

**GM:** 皆が降り立った所を目撃し、蛮族達も一斉にこちらに目を向けます。

**GM:** 敵の数は同じ種族が4体！さあ、魔物知識判定どうぞ！

**GM:** 【魔物知識判定】(セージ or ライダーLv+知力B+2D)

一同:(ころころ)

**GM:** お、弱点も抜きましたね～

**ヴァン:** (プレイヤー発言) みんな、その目は戦闘にとっておけ

皆往々にして出目が高かった…**GM**としては滝汗もの

**GM:** 種族はゴブリン。皆に向かってゴブゴブ言いながら向かってきます

**レンドル:** 「あれは以前、拷問したことがある蛮族！ゴブリンです！」

**ヴァン:** 「いつの間にだよ！？」

**アル:** 「一言多いいと思うぞ」

**アーシィ:** 「やはり拷問官か…あまり気持ちのいいものではないな…」

**レンドル:** 「たしか、魔法に弱いです！**トゥーズ**さん！」

**レンドル:** (プレイヤー発言) 昔、ハレットをちまちま当てて拷問した過去ありww

トウズ: >レンドル 「レンドル殿の銃も効果的ですぞ」

GM: 戦闘は簡易で行いますよ～。

アーシィ: (プレイヤー発言) じゃあ前衛行きます

ヴァン: 簡易だと、10Mずつ離れる感じですね(敵後衛)(前衛)(味方後衛)

GM: 皆さん、から見て水色が自軍、紫が敵軍です

レンドル: よかった・・・後ろには抜けてこないww

GM: 前衛に出たいキャラはアイコンを動かしてください～

トウズ: 無論味方後衛につきます！

レンドル: もちろん後衛です。よろしくです。

GM: んでは先制判定ですね。ゴブの先制値11

GM: 【先制判定】(スカウトLv+敏捷度B+2D)

ヴァン: 2D6+3 合計: 10 <3,4>+3

レンドル: 2D6+3 合計: 9 <3,3>+3

アーシィ: 2D6 合計: 5 <1,4>

トウズ: 2D6 合計: 9 <4,5>

アル: 2D6 合計: 10 <6,4>

レンドル: おふ・・・ww

アーシィ: (プレイヤー発言) (アカン)

ヴァン: 後攻ですね～

レンドル: ぎゃーww

トウズ: 出目をスカウト持ちに譲りたい！

GM: んではこちらから行動だ～！

トウズ: うぼあー

レンドル: かばえないww

ヴァン: (プレイヤー発言) ちょっと時間が長引くだけですw

GM: ゴブAがアルに攻撃！命中は10

GM: 回避判定どうぞ

アル: 2D6+4 合計: 12 <2,6>+4

レンドル: 「アルさん！さすがですっ！！」

アル: 「オセエよ」

GM: ゴブの攻撃はかすりもしない。

GM: ゴブBもアルにいけます！同じく命中10

アル: 2D6+4 合計: 9 <3,2>+4

GM: 命中～

GM: だめ行きます

アル: ノダメージ

ヴァン: 「流石に硬いね～！」

レンドル: (プレイヤー発言) アルさんがゴブリンたちと戯れてるww

アル: 「？ なにかしたか？」

GM: んではゴブCはヴァンに行きますよ～

GM: 命中10

ヴァン: 2D6+5 合計: 13 <5,3>+5

ヴァン: 「遅い！」先制取られたけど

GM:ゴブズ「ご、ごぶごぶ」(涙目)

GM:ゴブDはアーシィに行きます

アーシィ:2D6+4 合計:12 <2,6>+4

アーシィ:「そのような攻撃！」

GM:(ゴブ達は開いた口が塞がらない)

GM:お待たせしました！皆の手番ですよ～

アーシィ:(プレイヤー発言) 後衛組からいっちゃえー

レンドル:「だ～れ～を～う～と～を～か～な～…よしっ！」

レンドル:アーシィ前のゴブリンを撃ちます。

GM:ゴブDですね！んでは命中どうぞ。ゴブは回避10

レンドル:「クリティカルハレット！」

レンドル:2D6+5 合計:8 <1,2>+5

レンドル:「ふう～～…あれ？」w

GM:ゴブリンが振り向いたすれすれを弾丸が通過してしまった。お次の方どうぞ～

トウズ:じゃあ続いて自分が。ゴブAにむけてファイアボルト撃ちます。

GM:ほーい！抵抗は10。行使判定どうぞ

トウズ:2D6+5 合計:12 <4,3>+5

GM:ぬいたー

トウズ:5じゃなくて6だったけどどっち大丈夫だった！

GM:つづけてダメージどうぞ！

トウズ:R10C10+6 合計:15 <[6\_5],[6\_1]> = <6,3>+6

ヴァン:(プレイヤー発言) まわった～

レンドル:まわったww

アーシィ:(プレイヤー発言) まわったー

トウズ:いやっほうー

GM:おうふ

レンドル:おちたねww

GM:ゴブAは紅蓮の炎に覆われて燃え尽きた！

ヴァン:>トウズ 「一撃だ！すげえ」

トウズ:「うむ、砂漠が近いから火の妖精が活発的なのかもしれぬな」

レンドル:「トウズさん！すごいよ！」ww

アーシィ:「やるな、トウズ」

レンドル:前衛の方～お願いします^^

ヴァン:両手にハンドアックス！目の前のCに攻撃

ヴァン:2D6+4 合計:11 <6,1>+4

GM:命中！ダメージどうぞ！

ヴァン:R12C10+6 合計:8 <[3\_1]> = <2>+6

ヴァン:続いて左手

ヴァン:2D6+4 合計:13 <3,6>+4

ヴァン:R12C10+6 合計:10 <[2\_5]> = <4>+6

GM:右手6ダメ。左も命中！8ダメ！Cさんはフラフラだ！～

ヴァン:「くそ！トウズのうようには行かないか！」

レンドル:「いいえ！相手は、もうフラフラですよっ！」

GM: お次どうぞ～順番的にアーシィかな？

アーシィ: (プレイヤー発言) 質問、これは自分はCに攻撃できます？

ヴァン: ルールのにはOKですが・・・GM次第かな？

レンドル: 簡易はできちゃうんですよねえ・・・確か^^;

GM: おっけーい！

レンドル: ひゃっほーいww

アーシィ: (プレイヤー発言) ではかばうをヴァンに宣言！Cにバトルアックスで攻撃！

アーシィ: 2D6+4 合計: 9 <1,4>+4

GM: アーシィの一撃を紙一重でゴブがかわした！

アーシィ: 「ちっ、まだ私も未熟か！」

レンドル: 「アイシィーさん！！ゴ布林ビビってる！ヘイヘイヘイ！ですよ～」ww

アル: んじゃ目の前のBに攻撃だ～

アル: 2D6+3 合計: 11 <3,5>+3

ヴァン: 威力は27、クリティカル値は10、追加6

アル: そーい

アル: R27C10+6 合計: 10 <[3\_2]> = <4>+6

GM: ゴブBに8点！GM: ではこちらの番

GM: ゴブBはお返しにアルに攻撃一命中10

アル: 2D6+4 合計: 9 <2,3>+4

GM: 命中！だめいくよ～

GM: 2D6+2 合計: 8 <3,3>+2

アル: 2点～

レンドル: まだまだ元気そうですね^^

GM: 「ごぶう・・・(当てられて満足げ)」

アル: 「かすった程度か」

GM: ゴブCはアーシィに攻撃だ～命中10！

アーシィ: 2D6+4 合計: 8 <1,3>+4

GM: 命中！だめ～

GM: 2D6+2 合計: 10 <3,5>+2

GM: 10点物理ダメ～

アーシィ: (プレイヤー発言) くっ、4点か・・・

レンドル: 「アーシィさん！！回復必要ですかっ！！」

アーシィ: 「くっ・・・まだ大丈夫だ」

GM: まだまだ元気なゴブD！ヴァンに攻撃～

ヴァン: 2D6+5 合計: 14 <5,4>+5

GM: かすりもしない！

ヴァン: 「外したな？終わったと思え！」

GM: では皆の手番です！

レンドル: 2回の裏～～PCの攻撃～

GM: バッターは～誰？

アル: 「そろそろ決めるか」

アル: 補助マッスルベアー・飛行 主動作全力攻撃

GM: かもん！回避10



アル:2D6+5 合計:7 <1,1>+5

レンドル:おめww

GM:ごじってーん

アル:(プレイヤー発言) えええええええええ

アーシィ:(プレイヤー発言) ごじってーん

ヴァン:あらら

レンドル:(プレイヤー発言) アルさんが成長したがつているww

GM:アルの攻撃はいきなりの突風で軌道を逸らされた!

ヴァン:(プレイヤー発言) そうか、飛行があったんだ

アル:「クソッ」

アーシィ:(プレイヤー発言) ではかばうをヴァンに宣言! Cを攻撃!

GM:かもん! 回避10

アーシィ:2D6+4 合計:14 <6,4>+4

GM:命中!

レンドル:「避けられたの...怒ってたんだね...」(ホリ)ww

ヴァン:「ああ、怒っているな...」ぼそ

アーシィ:R21C10+4 合計:26 <[5\_5],[6\_6],[3\_3]> = <8,10,4>+4

レンドル:ミンチ! www

トウズ:怒ってたようです

GM:Cさん「ごぶうううう!!!」

アル:「ミンチだな」

ヴァン:>アーシィ「いい斧捌きだ!」

レンドル:「あわわわ...こんな悲惨な死体...見たことがないです」ww

GM:Cさんはアックス乱舞で細切れにされた!

アーシィ:「一矢報いてやったぞ...」

ヴァン:Dに攻撃「こっちも行くぜ!」

ヴァン:2D6+4 合計:10 <4,2>+4

GM:同値回避~

ヴァン:2D6+4 合計:12 <6,2>+4

ヴァン:R12C10+6 合計:10 <[6\_2]> = <4>+6

GM:こっちは当たり! 8点受けたよ!

GM:ゴブ達も大分焦ってるね

レンドル:「一打目はフェイントですか...高等テクニックですね。」

ヴァン:>レンドル「お...おう」

レンドル:では、行きますね~^^

トウズ:お願いします!

レンドル:Bにクリティカルバレットします。

レンドル:2D6+5 合計:11 <2,4>+5

GM:命中!

レンドル:R20C9+4 合計:16 <[4\_6],[2\_4]> = <8,4>+4

レンドル:「ふう~...あつ、眉間を打ち抜いてしまいました。」

ヴァン:>レンドル「やるな!」

トウズ:(プレイヤー発言) ヘッドショット!

**GM:** Bさん「ごぶっ・・・！」寸分の狂いないヘッドショットでB撃破！

**ヴァン:** (プレイヤー発言) あと一匹

**トゥーズ:** Dにファイアボルトで！

**トゥーズ:** 2D6+6 合計:15 <6,3>+6

**トゥーズ:** やった！

**GM:** 余裕で抜いたよ！だめどぞ！

**トゥーズ:** R10C10+6 合計:13 <[5\_5],[1\_4]> = <5,2>+6

**ヴァン:** 「終わったようだな。」

**トゥーズ:** 「灰は灰に！」

**GM:** Dさん「ごぶああああ！！！」

**GM:** 妖精の炎でDが上手に焼けました～

**アーシィ:** 「ふう、すこし傷を負ってしまったか・・・」

**ヴァン:** 「大丈夫か？これでもつけとけ。アルにも使ってやってくれ。」救命草二つ渡します

**アーシィ:** 「ああ、すまないな」

**GM:** 皆はゴブリンをやっつけた！剥ぎ取りどうぞ～

一同: (ころころ・・・)

**ヴァン:** 剣30G4本

**GM:** はい！報酬も共有メモに書いておきました！

**アーシィ:** (プレイヤー発言) アルとアーシィは回復しますが、いいですか？

**GM:** >アーシィ どうぞ～

**アル:** 「ん？俺は大丈夫だぞ」

**アーシィ:** 「まあそういうな」

**GM:** 二人ともぴったりに全快！

**アーシィ:** 「ふう、楽になった」

**ヴァン:** 「さて、あんたは大丈夫か？」襲われていた人へ

**GM:** ゴブリンを退け、襲われた人達は皆にお礼を言います。

**GM:** 「少ないですが、お気持ちだけでも」といい、その人は救命草を二つくれます

**レンドル:** 「ところで、こんな砂漠に近いところで・・・何をされてたんです？」と、アルさんの後ろから声をかけますww(人見知り設定忘れてたww)

襲われた人: 「いえ、すごい船を見かけたので、ダーレスブルグから来てみたのですが・・・蛮族に襲われてしまって」

**トゥーズ:** 「これではないか？(後ろのでっかい物を指す)」

**ヴァン:** 「この船はもう出るよ、君たちも帰るんだ」(遠いけど)

**GM:** 「本当に、本当にありがとうございます」

**GM:** 涙ながらにお礼を言われる皆。すると、ガレオンからペンティーアが降りてきます。

ペンティーア: 「よっ」と縄はしご使わず軽やかにジャンプで着地

**レンドル:** (プレイヤー発言) 肩には鳥・・・きっとオウムかなにかだww

ペンティーア: 「いや一見てたぜ。お前等結構強えじゃねえか。ますます気に入った！お前等ならやってくれそうな気がするぜ！はっはっは！」豪快に笑う

**レンドル:** 「まあ、貴方から見れば鼻息でフンなレベルの蛮族でしょうけどね・・・」

**トゥーズ:** 指先一つでノックダウン！

ペンティーア: 「細かい事は気にすんなって！さーて！早速ダーレスブルグに行ってみるか！今日は飲む

ぞ！俺の奢りだ！」

**アル**:(飲み過ぎないようにしとくか……)

**アーシィ**:'まだまだ、これでも未熟者だ……だが、ありがとう」

**ヴァン**:(大丈夫かな？この船長さん……。)'ご馳走になります！」

**レンドル**:'豪快ですね……おそらくなんですが……堂々と都市に入ると着陸と同時に騎士団に囲まれそうですが」ww

ペンティーア:'あ？それもそうか……おーい、**エスト**……あのな……」

**GM**:'ペンティーアはファミリアに何か話しています。

**ヴァン**:(まあ、いざという時は「ひとつらえました！」と引渡せばいいか……)

**GM**:'話を聞いた**エスト**は、ため息を吐きながら、どこかへ飛んでいきます。

**ヴァン**:'苦勞するな……あの鳥」

ペンティーア:'これで大丈夫だ。さ、行くぞ野郎共！そこの一般人！お前等ものってけ！ついでだ」

**レンドル**:'おお！アイアイサー！」

**ヴァン**:'馴染むの早いな……」

**レンドル**:'> **ヴァン**「なんとなくノリは解りました」ww

**アーシィ**:'私も……あんなの欲しいなあ……」

**ヴァン**:'じゃあ、**アーシィ**の報酬は、あの鳥にしてもらえばいいじゃないか。」

**アーシィ**:'(首を振った後)よし、行こうか」

**トウズ**:'うむ、飛行船。初体験といこうか」

**アル**:(なんか面倒なことになりそうな感じがする)

**ヴァン**:'> **アル**「大丈夫、俺に任せとけて」

**アル**:'>「やっぱり不安だ」

**ヴァン**:'うん、まあ、ちょっと頼りないやつもいるかな？けど大丈夫だろ？」自分が不安要素とはちっとも考えない

皆何だかんだでガレオンに興味満々ですねえ。しかあし！キャプテンとヴェルダー海賊団を侮る無かれ！しかし……流石にゴブリンじゃ相手にならんかったな。どのレベル帯でどれくらいの敵を出せばいいのか……今後の課題の一つです。

## ・ようこそ！そよ風亭

**GM**:'では、ガレオンに乗り込んだ皆は、1時間も経たずにダーレスブルグ周辺にまで戻ってきました。

ペンティーア:'おーおー！相変わらず活気があっていいなあダーレスブルグは！」

**GM**:'船を降り、堂々と街に入ったペンティーアはご機嫌です。

**レンドル**:'落ちなかったwwよかった

**レンドル**:'ちなみに……どうやってあの規模の船、動いてたんでしょうか？

**GM**:'飛空艇のコアというものがあましてね

**レンドル**:'それを制御する乗組員的なものは？自動運転とかですか？一瞬、ゴーレムとかアンデッドとかで動かしてるかもとか……妄想してましたww

**GM**:'ショーウィ・ガレオンはキャプテンか**エスト**が蛇輪で操作するだけなのだ！

**レンドル**:'すごっ！！wwショーウィ・ガレオンすごっ！！www

**レンドル**:「私は海賊ではありませんせ…ん？騎士団は？」  
ペンティアーア:「あ？騎士団なら大丈夫だ。アルフレートに話し着けたからな」  
**ヴァン**:>**GM** (プレイヤー発言) アルフレートという人物についてはPCは知っているでしょうか？  
**GM**:おおうそうか！アルフレートに見識判定！達成値8  
一同:ころころ…  
**レンドル**:「誰ですか？アルフレートって…」(失敗)  
**ヴァン**:「たしか、武器屋のオヤジのおじいさんがそんな名前だったな」(失敗)  
**レンドル**:「武器屋ってすごいんですねー騎士団止めれるんだあ〜」ww  
**GM**:ほい、**トゥーズ**と**アーシィ**抜いたので共有にさくっと書きました  
**GM**:というわけで、アルフレート三世。ダーレスブルグの現国王です  
**アーシィ**:「ペンティアーア殿はアルフレート王と知り合いなのか？」  
ペンティアーア:「ん？ああ、昔ちよつとな」  
**レンドル**:ペンティアーアもつとすごっ！！wwVIPだったww  
**アル**: (大物の名前が出てきたな…… 更に嫌な予感が…… )  
**レンドル**:>**ヴァン**「…うそじゃないですか…」ww  
**ヴァン**:「ああ、そっちか…」  
**アーシィ**:「ああ、そっちか…じゃないぞ！もう…」  
**トゥーズ**:「はっは。まあこの国出身でもなければ知らなくてもおかしくないだろう」  
**ヴァン**:「いや、まあ、知ってはいたが……。」  
**レンドル**:「も、もちろん！！し、知ってましたよ！あははは！」  
**ヴァン**:「さあ、酒場で打ち合わせと行きましょう！」  
**レンドル**:「では、私たちの冒険者の店に案内しましょう。すでにご存知かもしれませんが…」  
**GM**:どこかに行っていた**エスト**が戻ってきて、キャプテンの肩に乗ります  
**エスト**:「マスター。戻りました」  
ペンティアーア:「おう**エスト**、アルフレートに報告ご苦労！さ、行くか！」  
**GM**:**エスト**「はあ、全くマスターはファミリア使いが荒いです……」  
**GM**:ペンティアーアはずんずん進んでいく  
**レンドル**:「でも、これで国からの調査依頼は達成になります…か？」  
**ヴァン**:「条件は達成している気はするが…国王の知り合いでは必要なかったかもな」  
**アーシィ**:「まあ船の所有者連れてきたし問題なかろう」  
**GM**:一抹の不安を抱えつつ、皆はそよ風亭に戻ってきました。  
**ヴァン**:「ただいま〜」  
**レンドル**:「**コトリ**さん。お元気でしたか？」  
**トゥーズ**:「もどったぞ」  
**コトリ**:「おかえりなさい！皆さんご無事…で？」  
**アル**:「………」  
**アーシィ**:「ああ、ただいま戻った、さっそく食事を…」  
**ヴァン**:「これとって何事も。」  
ペンティアーア:「おお！良い店じゃねえか！！」  
**コトリ**:「…誰、ですか？」  
**ヴァン**:「件の船長さん」  
**コトリ**:「…え？」  
**レンドル**:「例の飛空船の船長で、ペンティアーアさんです。VIPです。」

トウズ:「まあそういうことだ」

コトリ:「えええええ〜〜〜〜！？」

ヴァン:「とりあえず、報告しておいてね」

コトリ:「は、はあ…分かりました。」

レンドル:「王様とも面識あるみたいですよ？」ww

ペンティーア:「お！店員の嬢ちゃんも可愛いな！ますます気に入った！！」

アーシィ:「さぞおどろいただろうな…まあ本人登場だし仕方あるまい…」

レンドル:「今回の依頼は無効になってたりしませんよね？^^;」

アル:「可能性は無きにしもあらずだな」

エスト:「それについては問題ありません。依頼主であるマグダレーナ姫にも事情を説明しました。コトリさんがお話しすれば大丈夫です」

アーシィ:「マグダレーナ姫とも知り合いとは…」

アル:「もうほとんどの作業お前がしてるんじゃないか？」

エスト:「>アル「ええ、誠に不本意ながら…はあ」

レンドル:「それはすばらしい！！貴方本当にファミリアですか！！」ww

ペンティーア:「はっはっは！細かい事は無視だ無視！良い店！良い仲間！良い女！こうなったら宴会だ！野郎共！朝まで騒ぐぞ！」

ヴァン:「(まあ、おごりなら好きなだけ食べようか…)」

アーシィ:「>ペンティーア「奢ってくれるといったな？」

レンドル:「仕事の話はまだ、全く進んでませんが…いいんですかね…いいんでしょうね。」ww

ヴァン:「(プレイヤー発言) ちょっと酒は控えめにして、大げさに騒ぐようにします。」

ペンティーア:「ああ、海賊に二言はねえ！好きなだけ食って飲め！他の連中も食ってけ！おれの奢りだあっ！！」

アーシィ:「じゃあコトリ殿！ここからここまで全部頼めるか？」

コトリ:「は、はい！ただ今〜」

ヴァン:「>アーシィ「食べてから頼まないで、また残すぞ？」

レンドル:「大人ですね…アーシィさん。…大人注文すぎます」ww

トウズ:「相も変わらずよく食べるものだな。…あ、すまない。私も同じものを」

アーシィ:「大丈夫だ！この程度すぐどっか行くからな！」

レンドル:「どこにもいかず、体に貯まっていくんですよ…着実に(ホリ)www

アーシィ:「貯まるとか聞こえたが」ピキピキ#

レンドル:「え…っつとですね(汗…いずれ、血のなり肉となって力が貯まっていくんですよ！)ww

アーシィ:「そうか、ならいいな！」

レンドル:「(プレイヤー発言) いいんだww

アル:「俺はもう寝る。後は頼んだ…」

ヴァン:「ああ、なんかあったら起こす」

アル:「こいつ等のテンションには着いていけん」

ヴァン:「だよな♪俺も同感だぜ！」

GM:あわただしく駆け出すコトリを合図に宴会が始まります。出される料理。次々に空く酒瓶、やんややんやの大合唱…その宴会は、夜遅くまでつづくのでした。

GM:ここで1日目終了。睡眠は取ったことにしておっけーです。特にやりたい事がなければ二日目に行きますが、よろしいですか？

アーシィ:「(プレイヤー発言) はいーい」

アル:(プレイヤー発言) おk～  
レンドル:お願いします。  
トゥーズ:大丈夫です  
ヴァン:OKです。ペンティーアから話聞けそうにないですね～

ここまでで、何だかんだで全面的に信用されてないキャプテン……。でも皆エストは信頼してますなあ  
(笑)喋り方と姿勢って大事。

### ・ハプニングは少年と共に

GM:では、明けて翌朝。時刻は八時です。  
レンドル:「おはようございます。今日も一日がんばりましょう！」(朝強い系)  
アル:「……………」 少しイラついてる  
ヴァン:「ああ～よく寝たな！」  
アーシィ:「うむ、今日も晴れたな！」(朝強い)  
ヴァン:>アル 「あさだぞ、起きろ」エールを一杯渡す  
レンドル:(プレイヤー発言) 学習してるww>ヴァン  
アル:>ヴァン 「……………」 無言で飲む  
トゥーズ:「ある意味強いのかもかもしれないな、これも」  
ペンティーア:「はっはっは！ここの料理は美味しいじゃねえか！おいコトリ！おかわりだ！」今日もキャプテンは絶好調です。  
レンドル:この人は相変わらずだww  
ヴァン:(プレイヤー発言) 朝からこのテンションか…  
GM:お陰でコトリは朝から忙しそうです。  
ヴァン:「キャプテン！そろそろ遺跡の話聞かせてくれないか？」  
レンドル:「10億Gがどうでもいいくらいのお宝なんですよね…」  
ペンティーア:「あ？そうだな。でもここだと難だし…よし、一回ガレオンに戻るか！」  
レンドル:ぞろぞろとついていきますww  
アーシィ:「わかった、行こう」  
コトリ:「ええ？お料理もってきたのに…」  
ヴァン:「(俺が言うのもなんだが。。。緊張感なさ過ぎるなこの人)」  
レンドル:「コトリさん。お弁当につめてよ？もってくから」  
トゥーズ:「うむ。頼む」  
コトリ:「分かりました」  
ヴァン:「あ。俺にも弁当一つ。」  
GM:コトリは一旦裏に戻ると、皆の分も持ってきてくれます。  
コトリ:「昨日の宴会の余り物ですけど…よかったら」  
アーシィ:「ああ、ありがとう、コトリ殿」(さわやかな笑顔)  
レンドル:「ピクニックみたいですわね…不謹慎なのは、よーく理解してますが」  
ヴァン:「いや、船長があればなら不謹慎でもないだろ…」

**GM:** コトリからお弁当をもらって外に出ると、皆はいきなり声を掛けられます。

??? : 「あー！あんた達は！」

**レンドル:** 「ど、どちら様でしょう？」**アル**さんの後ろでww

??? : 「あんた達、昨日蛮族をやっつけた人達だろ？」

**アル:** 「まあ、間違っははいないな」

**レンドル:** 「わ、悪いことはまだしてないですよ？」ww

??? : 「俺、遠くから見て感動しちゃいました！わーわーすげえ！」

**GM:** 声を掛けてきたのは10歳くらいの男の子。皆をみてもは凄い凄いと褒めちぎります

**ヴァン:** 「て言っても、ゴブリン倒しただけだけだな。」

??? : 「すげえな～武器もかっこいいや！ちょっと見せてもらってもいいですか？」

**アル:** 「商売道具は渡せんな」

**ヴァン:** 「危ないから触るんじゃない」

**レンドル:** 「私たちはこれからすっごい冒険にでるところなのです！帰ってきたらいっぱい遊んで上げますよ！…**アル**さんが(小声)」

??? : 「あ、そうか～ごめんなさーい……っ！」

??? : >**トゥーズ** >**アーシィ** ほい、ここで危機感知判定。達成値10

**トゥーズ:** ふあ？

**アーシィ:** (プレイヤー発言) ！？

**アーシィ:** 2D6 合計:11 <5,6>

**トゥーズ:** 2D6+6 合計:16 <4,6>+6

**レンドル:** 高え～～ww

**トゥーズ:** 耳がピクッと

**ヴァン:** タビットの第6感

**GM:** その子供は、**アーシィ**と**トゥーズ**からそれぞれ武器と宝石を盗もうとしたが、失敗に終わった！

??? : 「…ちっ！覚えてろ～バーカバーカ！」

**ヴァン:** 「なんだ、治安の悪い街だな…。」

**トゥーズ:** 「失敬なことをしようとする子ですねえ…。」

**レンドル:** 「他に盗まれたものはありませんか？」

**アーシィ:** 「なんだ！戦士の誇りを奪おうとするとは…。」

ペンティーア: 「やれやれだな。冒険者相手に盗みなんか、成功するわけねえだろうが」

**エスト:** 「……やれやれなのは貴方です、マスター」

**アル:** ←自分の持ち物盗んでいたら尻尾で叩くつもりだった

**レンドル:** 子供瀕死かも…尻尾でぺちww

ペンティーア: 「あ？なんだよエスト」

**エスト:** 「……マスター。盗まれてますよ、銃」

**ヴァン:** 「銃はまずいだろ！」

**アーシィ:** 「なにっ!？」

ペンティーア: 「…ああああああああああ！！！！」

**GM:** 懐をまさぐったペンティーアは、思わず絶叫します！

**レンドル:** 「相手がマジテックでなければ問題ありませんよ。それに、子供が銃売りに来たら…買う？明らかに盗品」

ペンティーア: 「そう言う問題じゃねえ！」

**レンドル:** 30m以内なら撃ちますが…ww

GM: 子供はすっかり見えなくなってます。

GM: 怒り心頭のキャプテンは、そよ風亭に戻り、コトリの下に向かいます。

トウズ: 「あの俊敏さは見習うべき…でしょうかね」

アーシィ: 「ああ…きっとそうなんだろう…」

ペンティアー: 「おいコトリ！ 依頼だ！ 報酬一人500G！ 俺の銃盗んだクソガキとつかまえる！ 使命はレンドル達だ！」

レンドル: 「ご指名ありがとうございます！！レンドルでっす！！」ww

コトリ: 「え、ええええええ？」

ヴァン: 「頑張れレンドル！」

アーシィ: 「おいおい…」

レンドル: 「えっ？ みんなで行こうよ？」

アル: 「俺、宿で休んでいいか？」

レンドル: 「ダメ！ お金でるから！ 一人500Gだから！」

トウズ: 「”達”とは…？」

レンドル: 「私たち、仲間じゃなかったのお…」

ペンティアー: 「バカ言うな！ 使命はお前等全員だ！ あのガキを何が何でもとつかまえてこい！！！」

ヴァン: 「はあ…」ため息

レンドル: 「とにかく、子供が逃げたほうにダッシュです！」

エスト: 「すみません皆さん。不甲斐ないマスターのフォローお願いできますか？」

トウズ: 「ふう…やっぱりそういうことになりますか(ため息)」

レンドル: 「あとで脳に優しいスイーツおごりますから！」>トウズ

トウズ: 「まあ自分も狙われた身です。少しぐらい説教垂れるのもいいでしょう、協力は惜しみませんよ」

アーシィ: 「人の依頼なら微力ながら力をつくす覚悟だ、受けるよ」

ヴァン: (プレイヤー発言) >GM コトリさんからの依頼もまだ報酬は入っていませんよね？

GM: >ヴァン あ、それは入った事にします。買い物するならこのタイミングでどうぞ

ヴァン: では、500G追加で…

レンドル: 買い物はマギスフィア(小)100G買います。

トウズ: >GM 魔香草を3つつほど買いたいです

アーシィ: (プレイヤー発言) 剛力の指輪ほしいです

アル: (プレイヤー発言) 特にな～し

ヴァン: (プレイヤー発言) 買い物は必要ないです

さあ、いよいよメインのミッション！ しかしキャプテン、間抜けな…。さあ、キャプテンからの初依頼…どうなりますやら。



## ・東奔西走！ダーレスブルグ！

GM:では探索ミッションです。ルールは以下の通り。

北外郭部	貴族住宅地	城門付近
商店街	中央広場	一般住宅地
南外郭部	南門前	貧民区域

### 【探索クエスト】

午前9時スタート。

移動に20分、加えて探索判定をする場合は10分。

PTの分散は自由。

一般住宅街からスタート。

探索判定で達成値10以上でヒント

動けるのは一回に1マス。

斜め移動不可

ヴァン:「手分けするか？」

アル:「だな」

アーシィ:「いいだろう」

ヴァン:(プレイヤー発言) 探索できるのは…**レンドル**と**ヴァン**かな

アーシィ:(プレイヤー発言) レンジャーはダメ？

**レンドル**:レンジャーでも探索利くなら、**ヴァン**&**アーシィ**&**レンドル**が技能もちですね。

GM:屋外なので、レンジャーもオーケーとします

ヴァン:(プレイヤー発言) 3人か、うまくすれば速く終わるね。

相談の結果、**トゥーズ**が城門付近に直行、他のメンバーが一般住宅地で探索をする事に。

**レンドル**:「もし見つけたら信号弾(シグナルバレット”WTに掲載のレベル1の魔法)を撃つから！」>**トゥーズ**

**トゥーズ**:>**レンドル**「心得た」

**ヴァン**:>**GM** 経過時間は各プレイヤーで管理したのでOK?

GM:そうですね。お手数ですがそれをお願いします

ここ、今回の反省点。移動を20分にした関係で時間管理が大変に…移動も10分にした方が分かりやすかったかもなあ…。

一般住宅地判定組:(ころころ…)成功!

GM:「銃を持った男の子?中央広場の方に行ったのを見たな」

**レンドル**:「野郎ども!!中央広場だあ~~!!続けえ~~」ww

**アーシィ**:「急に元気になったな…」

**レンドル**:「おっと…船長の口調が移ってしまいましたww」中央広場へ移動します。

**ヴァン**:「向こうも移動している可能性もあるから、俺は貧民地区のほうへ行ってみる。」

**アル**:「俺も貧民外へ行ってみる」

GM:了解です。では、一旦**トゥーズ**のほうに移りましょう。

**トゥーズ**:では皆が移動してる間に聞き込みを

**トウズ**:2D6 合計:9 <3,6> 1足りなかった！

**レンドル**:**トウズ**の聞き込み終了で30分経過～

**GM**:残念ながら、ヒントはもらえませんでした。もう一度そこで聞きたい場合は、もう一度判定です。スルーすることも可能です

**ヴァン**:(プレイヤー発言) もう一度聞き込みすると、タイミングが揃いますね。

**トウズ**:(プレイヤー発言) じゃあもっかい聞き込みですかね

**GM**:了解です。

**トウズ**:2D6 合計:6 <3,3>

**トウズ**:悪くなった！

**GM**:では、タイミングが同じなので、皆さん一斉に探索判定どうぞ

中央広場組:(ころころ)成功

貧民街組:(ころころ)失敗

**ヴァン**:「しかし、お宝どころか、子供探して街をさまようとは・・・。」

**レンドル**:では、WT掲載エクスペローラエイド(レベル2)探索、罠解除+2の使用はOKでしょうか？

**GM**:じゃあアリにしよう！皆どどんMP使うのだ！

**GM**:**トウズ**のフェアリーウィッシュなんかも有効です。

**トウズ**:しまった！使っておけばよかった！

**アーシィ**:(プレイヤー発言) >**トウズ** あるある、使わない魔法は忘れるものですwww

これは本当にあるあるですねえ(笑)**GM**もPLやるときは魔法一覧を何度も見ながら使える魔法を探す物です。…フェアリーウィッシュ使ったこと無いなあ(汗)

**GM**:では、中央広場情報開示です。

道行くおばさん:「銃を持った・・・ああ、コウのことかねえ？」

**アーシィ**:「知り合いなのか？」

おばさん:「ああ。あいつのご両親とは知り合いでね・・・蛮族に親が殺されてから、妹と二人だっけ聞くけど・・・変なことしてないかねえ？」

**レンドル**:「あれ、盗んじゃいけない人から盗んじやったんです！！早く返さない！！」

**アーシィ**:「ええ、ご立腹だったよ・・・」

おばちゃん:「あれま、あの子ったら・・・確か、商店街の方にいったと思うけど・・・」

**アーシィ**:「ありがとう、恩にきるよ」

**GM**:以上で、中央の開示終了。さて、次はどうしましょう？

時間は9:40。**レンドル**&**アーシィ**は商店街へ、**ヴァン**と**アル**は貧民街でもう一度探索、**トウズ**は貴族住宅地へ移動を選択。

**トウズ**:それとフェアリーウィッシュを保険で(行使判定成功)

**GM**:ほい、フェアリー成功。

**GM**:では、まずは貧民区域二人の判定ですね

**ヴァン**:探索しますね

**ヴァン**:2D6+3 合計:9 <3,3>+3

**GM**: 1足りな一い！

**アル**: 2D6 合計: 8 <4,4>

**ヴァン**: こんなところで、時間はつぶせない、変転！

**レンドル**: (プレイヤー発言) すごい思い切ったww

**GM**: 変転了解です！達成値11！では情報開示

変転ってホントに便利だな～、と思い知らされる場面。最近人間のキャラ作ってないなあ・・・かっこよく変転したいもんです。

貧民のおじさん: 「銃を盗んだ・・・？ああ、コウの事だね」

**ヴァン**: 「どっちへ行った？」

おじさん: 「あいつなら、さっきここに来たよ」

**ヴァン**: 「なんだって？盗んだの承知で見逃したのか？」

おじさん: 「銃を持ってたっただけで、盗んだ品だなんてしらないさ」

**レンドル**: (プレイヤー発言) 子供が銃・・・買ったとおもったのか～！！ww

**ヴァン**: 「やばい品なんだ、速く返さないとコウが危ない！どっちへ行った？」！

**アル**: 「ヴァン？ どうした？」

**ヴァン**: 「コウという子供らしい、ここに来たようだ」

おじさん: 「たしか、商店街でかくまってもらって、やり過ごしてから南門に向かって外に出るって言ってたぞ？」

**ヴァン**: 「ありがとう！」

**アル**: 「南門で待ち伏せるか？」

**ヴァン**: 「そうしよう」

**GM**: 以上で、貧民区画の情報開示終了です。

**アル**: (プレイヤー発言) **アル**と**ヴァン**は南門へ～

**GM**: 了解です。

**ヴァン**: 南門、次動けるのは10:10から

**GM**: では先に他三人の探索判定ですね。移動も可能です。

貴族住宅地(**トゥーズ**): (ころころ・・・)成功！

商店街組: (ころころ・・・)成功！

**トゥーズ**: 成功したけどなんもなさそう！

**GM**: ではまず、**トゥーズ**の方から。

インテリ貴族: 「銃を持った市民？見てないねえ、ベイビー」

**トゥーズ**: 「そうか、手間をかけたな」

インテリ貴族: 「それよりも、君はかわいいタビットだ！モフモフしてもいいかい？ベイビー」

**トゥーズ**: 「(台詞を聞き終わる前に第六感で察知して逃げる図！

**GM**: 以上。開示おわり(え

**レンドル**: (プレイヤー発言) ...べ、ベイビーww

**アーシィ**: (プレイヤー発言) インテリとはなんだったのか・・・

**レンドル**: (プレイヤー発言) インテリジェンス低い貴族の略なんだ・・・きっとww

**ヴァン**:(プレイヤー発言) >**レンドル** そこは略しちゃダメだろうw

**アーシィ**:>**レンドル** (プレイヤー発言) ダメだこりゃwww

**レンドル**:www

インテリ貴族のモフモフ攻撃から文字通り脱兎の如く逃げた**トウーズ**は中央広場へ…

**GM**:さて、では商店街の情報ですね？

露店のおばちゃん:「ああ、**コウ**の事だね？あいつならもうここにはいないよ？」

**アーシィ**:「逃げ足の速い…どっちにいったか知らないか？」

**レンドル**:「**コウ**くんがかなり危険な状況なんだ！ヤツに見つかったら…ガクガクブルブル」

おばちゃん:「南門から外に出るっていったよ？」

おばちゃん:「あいつ、妹の為とはいえ、あんな物騒なもの持って…無茶しなきゃ良いけど」

**アーシィ**:「妹、か…わかった、ありがとう」

**レンドル**:「妹さんのために盗みを？」

おばちゃん:「ああそうさ。『妹は俺が守るんだ』とか、最近よく言ってたから…ご両親が亡くなって、せっぱつまっているんだねえ」

**アーシィ**:「ならここで食い止めないと危険だな…あの銃の持ち主、ご立腹だったからな…妹守る前に、自分がひどい目に遭いかねん」

**レンドル**:「それでも、**コウ**くんにもしものことがあったら妹さんは…」

おばちゃん:「あんた達、事情はよくわかんないけど…もし**コウ**に会ったら力になっておくれ。あの子、根はとっても良い子なんだ…頼むよ、この通りだ」

**アーシィ**:「ああ、わかった。なんとかしてみるよ」

**ヴァン**:(プレイヤー発言) 「バーカバーカ」って言ってた…。

**レンドル**:「これは独り言なんですけど…私たちは銃の奪還を依頼されてましてね…銃さえ、戻ってくればそれでいいんですよ。それに、子供に盗まれたなんて…噂が広まったら先方も…ねえ…」

**GM**:なんか物騒www

**ヴァン**:(プレイヤー発言) 聞き様にとっては、**コウ**がどうなるのか怖いんですけど？

**アーシィ**:(プレイヤー発言) おい、なんか拷問官がいうとシャレに聞こえないぞw

**レンドル**:「もし、**コウ**くんから預かったものとかありませんかね？」ww

おばちゃん:「あいつなら隠れるだけ隠れてさっさといっちまったよ。それじゃ、たのんだよ」

**レンドル**:「最後に、**コウ**くん…どっちにいきました？」

**GM**:「南門から外に出るっていったよ？」

**レンドル**:「ありがとうございます。**コウ**くんにちょっとお灸をすえてきます。」

**GM**:「あいよ。しっかりやんな！」おばちゃんは気前よく見送ります

**GM**: 以上で商店街の情報は終了です。

ここで、PT全員がそれぞれのルートを経由しながら南門に合流する流れに。まずは先回りしていた**アル**と**ヴァン**の探索からですね。

**GM**:>**ヴァン** >**アル** では探索どうぞ！

**ヴァン**:2D6+3 合計:12 <3,6>+3

**アル**:2D6 合計:12 <6,6>

**ヴァン**:よし！

GM: はい、開示～

レンドル: きた———ww

アル: (プレイヤー発言) よしよし

GM: アルとヴァンが南門で待っていると、先程の男の子、コウが走ってきます。二人を見つけて、ぎくつとした顔をしますね

アル: >GM 気づいてないフリしてすれ違うと同時に尻尾で攻撃していいですかね？

GM: おっけー！

GM: 命中判定！こっちは回避9

アル: >ヴァン 小声で「気づいてないフリしろ。失敗したら任せる」

ヴァン: 「やりすぎるなよ」小声

アーシィ: (プレイヤー発言) ひいい

アル: 2D6+4 合計: 10 <1,5>+4

GM: お、ギリ命中

GM: ではコウは「ふげっ！」と言って地面をゴロゴロ転がっていきますね

ヴァン: コウを取り押さえよう

ヴァン: 「さあ坊主、物騒なものは返すんだ。」

アル: >コウ 「ガキ、それでなにするつもりだった？」

コウ: 「くっそ！ 離せ！ 離せよ！」ジタバタともがきます

ヴァン: 「こんな中古の銃、10Gにもならないぞ・・・」

ヴァン: >GM (プレイヤー発言) といいつつ、宝物鑑定してみたいですが？

GM: はいはいどうぞ？ 達成値12

ヴァン: ころころ・・・失敗。(プレイヤー発言) 厳しいか

GM: 凄い武器なんだよ・・・？ ふひひ

キャプテンの装備や詳細は後々発表予定！ すごえ奴だぜ・・・多分。

アル: >コウ 「もう一発くらいいたいかな？ 何をしようとした？ なぜ盗んだ？」

コウ: 「離せよ！ 俺はこれをつかって妹を守るんだ！」

アル: 「それは蛮族を殺すってことか？」

コウ: 「そ、それは・・・」

アル: >GM コウに銃を握らせて引き金に指をかせさせアルの額に銃口向けさせていいですか？

GM: おけーい！

コウ: 「ひっ・・・！」

アル: 「蛮族を殺すんだろ？ リルドラケンの一人や二人殺して見せろよ？ ほら、引き金を引けよ」

コウ: 「あ・・・あ・・・！」銃を持つ手がかたかたと震える

ヴァン: 「おい、やりすぎだろう・・・。」

このやりとりの間に、他エリアの三人も合流～。しかしアルさん・・・最初に見せたアクティブな場面がこれとか・・・カッコいい。カッコよすぎます。

トウズ: 「ぜえぜえ・・・今世紀最大のピンチだった・・・で、これはどういう状況だ？」

レンドル: 「アルさんが、人質に取られているっ！！」ww

アル: >コウ 「さあ、引いてみろよ」

アーシィ: 「はっ！ おいアル！ なにをしている！ よせ！」

ペンティーア: 「いや、あのままやらせろ」

GM: どこからかやってきたペンティーアは真剣な眼差しでアルの様子を見守ります

アーシィ:「ペンティーア殿…来たのか」  
ペンティーア:「今し方な」  
レンドル:「ところでコウ少年、マジテックとしての知識は？ マギスフィアなら貸しますが…」  
ヴァン:>レンドル「貸すな！」  
アル:>レンドル「貸せ」  
レンドル:「よかった…さっき予備を買っておいて…はい、どうぞいたって真剣に渡します。」  
アーシィ:「…」(じっと見ている)  
レンドル:>ヴァン「ここはアルさんに任せてみましょうよ…ね？(小声)」  
ヴァン:>レンドル「俺は、ガキは嫌いなんだ。好きにしろ。」ボソッと  
アル:(コウに無理やり持たせて)「いいか、ここで銃を引けばお前は誰かと殺しあうことができる。」  
アル:>GM「ただし、そこから先は血塗られた道だ。誰かを殺して手に入れた道だ。二度と普通の道には戻れない。」  
コウ:「普通の…道…？」  
アル:>GM「そうだ、普通の道だ。きれいに掃除された道だ。…引き金を引けばもう歩けないがな」  
コウ:「マシロとも…妹とも、いられない…？」  
アル:「お前はその手を血に染めて、その手で妹を抱くならそれでもいいさ。だが、これだけは言える。お前は毎夜うなされるだろう。お前が殺した者のことだな」  
レンドル:「露店のおばちゃんも気にしてましたよ？ 危ないことをする彼方のことを…」  
コウ:「おばちゃん…も？」瞳に涙が溜まる  
レンドル:「彼方たち兄妹二人だけじゃないんですよ？ この街を駆け回ったから解ります。」  
コウ:「…俺…俺は」  
アル:>GM「コウ選べ。ここで引き金を引いて戻れない血の道か、引き金を引かずきれいな道を歩くか」  
GM:コウは静かに銃から手を離します  
コウ:「…ごめん、なさい」涙を必死に堪えながら、コウは深々と頭を下げます。  
レンドル:「この街の少なくない人たちがあなたたち兄妹のことを心配してましたよ？」  
コウ:「…うん、俺、皆に謝らな」  
??? :「きゃああああああああああつ！！！」  
GM:突如聞こえる悲鳴。門の外から聞こえています。  
アーシィ:「なんだ!？」  
ヴァン:「今度はなんだ…?!」  
アル:「？」  
コウ:「この声…マシロ！」  
GM:言うが早い、コウは門の外に飛び出していきます  
ヴァン:「外かよ?!」  
アル:「ッ、あの馬鹿ガキが」コウを追いかける  
ヴァン:声のほうへ走ろう  
アーシィ:「待て、危険だ!!」駆け出す  
レンドル:無言で駆け出します。  
トウズ:「よくわかりませんが…まあ話してる余裕はなさそうですね」(追従

皆、優しい PC 達で良かった…コウ君ぼっこぼこにされたらどうしようかと…(笑)さあ、いよいよクライマックスシーン！

### ・マシロを救え！

GM: 皆が走って向かうと、そこには今にも蛮族に襲われそうな少女が、座り込みながら震えています。  
GM: 「へっへっへ…うまそうなガキだな(汎用蛮族語)」

**トウズ:**「マテ オマエ クウ ヤメロ！（汎用蛮族語）」  
**コウ:**「このっ……！マシロを離せっ！」  
**GM:**コウは無謀にも蛮族達に向かっていきます。  
**レンドル:**（プレイヤー発言）**アーシィ**さんのための状況ですねww  
**アーシィ:**（プレイヤー発言）蛮族語わかんないんだけど…まあいいや！  
**アーシィ:**「コウ、待て！私が行くっ！」突っ込む  
**レンドル:**「人族の都市の目の前で、度胸があるのか…馬鹿なのか…」  
**アル:**コウを無理やり止めていいですか？  
**GM:**どうぞ～  
**アル:**コウの服を掴んで**レンドル**に投げる！！  
**コウ:**「うわあっ！？」**レンドル**の方に飛んでいきます  
**レンドル:**「うわっ…キャッチ！！無茶すぎですよ。コウくん…と**アル**さん  
**ヴァン:**蛮族のほうへ走ろう  
**アル:**「ガキ、こっからは血に濡れたおっさん達の仕事だ。邪魔すんなよ」  
**コウ:**「リルドラのおじさん…」  
**レンドル:**「そうです。お兄さん！！…たちの仕事ですよ。」  
**アル:**（まあ、リルドラの年齢からはまだハタチなんだがな…）  
蛮族:「おお！？蛮族語を喋れるとは驚きだ。んじゃあ隠す必要もねえなあ（交易共通語）」  
**GM:****トウズ**に蛮族語を話された蛮族は、いきなり交易共通語で話してきます。  
**レンドル:**（プレイヤー発言）共通語を話せる蛮族って…もしやww  
**アーシィ:**「貴様、このような子供にまで手をあげるか！」  
蛮族:「知った事か！美味そうな人間は全部えさだ！ちいと喰い手は足りないがなあ」  
**アル:**「蛮族共…ちよっくら殺し合いでもしようぜ」  
**トウズ:**「おっとこちらの言葉で喋れましたか。助かります、あなたたちの言語は不得手でして」  
**ヴァン:**（プレイヤー発言）一匹だけですか？  
**GM:**2種類の蛮族。数は三体ですね。  
**マシロ:**「ひっ…お、お兄ちゃん…」  
**レンドル:**「あなたは、後でしっかり尋問させていただきます！」（ビシ  
**コウ:**「マシロ…マシロ！」  
**アーシィ:**「コウ、安心しろ。マシロは私達が必ず助ける！」  
**レンドル:**「大丈夫！大丈夫ですからね。コウくん」  
**GM:**それでは、魔物知識判定、二回お願いします。  
一同:（ころころ…）  
**GM:****トウズ**が2体とも弱点抜きましたね！  
**GM:**敵はゴブリンが2体。残り一体はケンタウロス  
**トウズ:**（プレイヤー発言）土属性なんてないや…  
**ヴァン:**（プレイヤー発言）ケンタ君は交易共通語、普通は話せない…勉強したんだね。  
**アル:**（プレイヤー発言）それって欠片もち可能性出てきたね  
**GM:**ご明察。ケンタウロスには剣の欠片が二個入ってるよん♪  
**アル:**>**GM**（プレイヤー発言）案の定過ぎるww

ケンタウロスって交易共通話せないんだ…（汗）今度からはどの魔物が何語話せるのか勉強しとこうっ  
と(ピョッ

**ペンティアー:**「おいガキ」  
**GM:**コウに近づいたペンティアーは、コウから銃を取り上げ、ケンタウロスに向かって投げつけました。  
ペンティアー:「おらよっと！！」  
**GM:**ケンタウロス「……？なんのつもりだ？」  
**ヴァン:**「なにやってんだ？！」  
**アル:**「……ペンティアー ……はあ」

ペンティーア:「おいお前等、依頼の内容、ちよいと訂正だ」  
アル:「こいつらに盗まれた銃を取り戻せばいいんだろ？」  
ペンティーア:「そ。分かりやすくシンプルに。“俺の銃を取ってこい”」  
アル:「俺は犬じゃねえ……」  
アーシィ:「いいだろう！」  
トウズ:「困りましたね、依頼主の頼みなら冒険者として拒むわけにはきません」  
ヴァン:「報酬は弾んでもらうぞ！」  
ペンティーア:「ちっ、しゃーねえな。これが終わったらコトリの店で宴会だ！」  
アル:>GM「はあ…… 今日だけ WarDog なるか……」

GM: てなわけで、先制判定！  
GM: 達成値12  
ヴァン: (プレイヤー発言) 先制は取れませんでしたね  
レンドル: また、先制とれなかった(T\_T)

何とこのセッション、2連続で先制失敗。なんというか……こんな偶然もあるよね～♪(しれっ汗

GM: あら～……じゃあ、こっちからいきましょう！  
GM: ゴブ A、ヴァンに攻撃！命中10  
ヴァン: 2D6+5 合計: 11 <1,5>+5  
GM: ひらりっ！  
ヴァン: 「もう見切ったって」  
ケンタ: 「ほう、ゴブリン達が負けるわけだ……やるな」  
GM: ではゴブ B！アルに攻撃！  
アル: 2D6+4 合計: 13 <6,3>+4  
GM: ひよいつ  
アル: 「……」  
ケンタ: 「ふふふ……ならば、これはどうだ？」  
GM: ケンタ、アルにファイアボルト。抵抗11～  
レンドル: 「あれは……トウズがゴブリンを一撃で沈めた……魔法」  
アル: 2D6+4 合計: 6 <1,1>+4  
トウズ: Oh……  
アーシィ: あらら  
レンドル: おめ^^;  
アル: (プレイヤー発言) 何回目だよ  
ヴァン: (プレイヤー発言) 回らなければ大したことないが……  
レンドル: (プレイヤー発言) やっぱアルさんが成長したがつているwww  
GM: 威力いきます～  
GM: R10C10+4 合計: 9 <[5,4]> = <5>+4 9点魔法ダメ～  
ヴァン: (プレイヤー発言) 危ない！  
アーシィ: (プレイヤー発言) おっかないな～  
レンドル: 「アルさんっ！！回復しましょうか！？」  
アル: 「ツハ、生温いぜ！！これなら里の爺共のほうがよっぽど痛いぜ！！」  
GM: お待たせしました。皆の手番です  
ヴァン: 「引きずり出してやる！」  
ヴァン: ハンドアックスを両手で攻撃、ゴブリン A  
ヴァン: (ころころ……) 1回命中  
ヴァン: R12C10+6 合計: 7 <[1,2]> = <1>+6  
ヴァン: (プレイヤー発言) ショボイ……5点通ります  
GM: どんどんいこうー！



**トウズ:**じゃあいきます！ゴブリン A にファイアボルト！

**トウズ:**2D6+6 合計:13 <1,6>+6

**GM:**抵抗抜いた！

**トウズ:**ダメージ！

**トウズ:**R10C10+8 合計:11 <[1\_6]> = <3>+8 弱点込みです！

**GM:**ほい撃沈～

**ヴァン:**(プレイヤー発言) ぴったし

**アーシィ:**(プレイヤー発言) よっしゃ

**レンドル:**必殺技になってるww

**トウズ:**「骨まで暖めてあげますよ！」

Aさん:「ごぶぶぶぶぶ……」炎に悶えながら崩れていく

**GM:**次いこー！

**ヴァン:**(プレイヤー発言) ゴブリン一匹では戦線を維持できない、次のラウンドはケンタウロスも前衛だね。

**GM:**ですね wwwww(もうちょっと数増やすべきだったかな……?)

**アル:**>**GM** 補助・飛行・ベアー 主全力 で ゴブ A

**アル:**2D6+5 合計:13 <4,4>+5

**GM:**命中！

**アル:**R27C10+10 合計:43 <[4\_6],[5\_6],[5\_6],[2\_5]> = <9,9,9,6>+10

**GM:**うへえ wwwwww

**アル:**(プレイヤー発言) ポカーン

**アーシィ:**すげええええ

**トウズ:**(むごい

Bさん:「……！」

**アル:**空からゴブに突撃でwww

**GM:**Bさんは言葉も出せないまま脳天から一刀両断された

**レンドル:**「もう……絶対この人の言うことには逆らわないでおこう……(ホリ)

**アル:**「キシャア!!」(これケンタにやったら一撃で終わってたな)

**ヴァン:**「哀れな……」

ケンタ:「ば、バカな……なんだこいつらは！」

ケンタのセリフはGMの心の声です……四回回るとか勘弁してくださいませ。死んでしまいます、ホント(笑)

**レンドル:**乱戦エリア消滅で、ケンタ狙えます？

**GM:**おけーい！

**レンドル:**では、ターゲットサイトしてクリティカルバレット装填

**GM:**ケンタの回避10！！

**レンドル:**2D6+4 合計:11 <6,1>+4

**レンドル:**R20C9+4 合計:8 <[2\_4]> = <4>+4

**GM:**8点うけます～

**レンドル:**あとは、**アーシィ**さん？

**アーシィ:**(プレイヤー発言) では補助動作でビートルスキン、前進してケンタに攻撃！

**アーシィ:**2D6+5 合計:11 <4,2>+5

**アーシィ:**R21C11+4 合計:6 <[3\_1]> = <2>+4

**GM:**4点受けます～

ケンタ:「ぬぐっ……ええい！負けぬぞ！誇り高き“ポリヨック”の行動隊長の俺がこんな所で……！」

**GM:**では、皆の手番終わりかな？

**アル:**(プレイヤー発言) ですね

**ヴァン:**「ポリヨック？まだ仲間が居るのか……」

**レンドル:**「ポリヨック……行動隊長ねえ……メモメモ」

アーシィ:「貴様らもここで終わらせてやる、覚悟しろ！」

GM:ではケンタの手番。アーシィにファイアボルト！抵抗達成値11

アーシィ:2D6+8 合計:13 <4,1>+8

ヴァン:(プレイヤー発言) 抵抗値w

GM:おうふ…さすがシャドウ

GM:R10C13+4 合計:5 <[2,2]> = <1>+4

トゥーズ:1ゾロ以外成功じゃないですかー！

GM:切り上げで3ダメ。皆の手番だよ～

アーシィ:「その程度の炎で私は屈しない！」

レンドル:「トゥーズさんのとはまったく別物ですね。」

レンドル:(プレイヤー発言) でも、なんでアーシィさんが狙われたんだらうww

GM:いちばん ちかくに いたから

アル:(プレイヤー発言) ダメージ与えたのと近かったからじゃないの？

ヴァン:(プレイヤー発言) 目の前の脅威

アル:(プレイヤー発言) 俺だったらアル攻撃してたw

レンドル:(プレイヤー発言) なるほどwwケンタ～ビビってる！ww

ケンタ:「おのれ、小癪なあつ…！」

実際、攻撃はブラインドで1d振って決めてたんですよ～…しゃあないやん、出目がアーシィさんになったんやもん(涙)

アル:(プレイヤー発言) 前衛全員でフルボッコしますか」

GM:どぞどぞ～

ヴァン:では、移動攻撃します

ヴァン:2D6+4 合計:7 <1,2>+4

ヴァン:2D6+4 合計:10 <4,2>+4

ヴァン:(プレイヤー発言) なんとw

GM:両方回避。…ケンタ、ここで本気出さなくても…

レンドル:これはフェイント！！ジェットストリー○アタックだ！ww

アーシィ:(プレイヤー発言) じゃあ行きます！

GM:ケンタはヴァンの攻撃をかりうじてよけた！体勢が崩れている！今がチャンスだ(ペナとかないけど)

アーシィ:(プレイヤー発言) かばうをヴァンに(一応)、ケンタに攻撃！

アーシィ:2D6+5 合計:14 <6,3>+5

アーシィ:R21C11+5 合計:11 <[3,4]> = <6>+5

GM:9点もらった！

レンドル:締め！アルさんww

GM:あと14！

アル:飛んで全力攻撃じゃあ

アル:2D6+5 合計:9 <3,1>+5

アル:orz

GM:あら～…ケンタは意地でも攻撃を避けている！さあ、追い打ちだ～

レンドル:タゲサしてクリティカルバレット装填～

レンドル:2D6+5 合計:9 <1,3>+5

アーシィ:おいおい…

レンドル:うう…

GM:ケンタはマトリックスもビックリなアクロバティックで避けた！

アーシィ:(プレイヤー発言) 想像して吹いたwww

レンドル:でも、こっちはトゥーズ先生が！！ww

アーシィ:(プレイヤー発言) とどかないんじゃ…

トゥーズ:そうなんです！10m射程なんですあれ！むりだあ！全力移動で！

GM: 了解!

レンドル: 奇跡だ...生き残ったww

GM: ...あれ?ケンタの手番が来たぞ?

トゥーズ: (プレイヤー発言) く、届け妖精!なぜ届かん!

アーシィ: (プレイヤー発言) くっ...10mだとおお——!!

ケンタ:「負けてたまるかあああ!」今度はヴァンにファイアボルト。抵抗11

ヴァン: 2D6+5 合計: 11 <5,1>+5

レンドル: 同値ww

トゥーズ: びったし!

GM: R10C13+4 合計: 8 <[2\_6]> = <4>+4

GM: 4点魔法ダメ

アーシィ: 魔法はかばえないし...

ケンタ:「負けぬ...負けぬぞ!まだ俺はああああ」←必死

ヴァン:「最後の抵抗だな。」

GM: さあ、皆の手番です!

アル: じぶんいきま~す

GM: どぞ!

アル: 2D6+5 合計: 9 <3,1>+5

アル: 泣いた

GM: わあいwww このケンタ...持ってるわあ...

アル: (プレイヤー発言) トゥーズ、魔法でとどめさしちゃえ

トゥーズ: (プレイヤー発言) ダイスの女神さまは気まぐれでいらっしやいますなあ...

アーシィ: 自分が先やります、そのあとでのほうが...

GM: ほいほい!どぞ~

トゥーズ: ですね!お願いします!

アーシィ: 2D6+5 合計: 8 <1,2>+5

ヴァン: あれ?

GM: ひよい

アーシィ: うん

アル: (プレイヤー発言) 女神え

ヴァン: 削っておくね。倒しちゃったらゴメン

レンドル: 倒しちゃってくださいww

トゥーズ: いえむしろここで倒した方がカッコいいです!

GM: いけー!

ヴァン: 2D6+4 合計: 13 <4,5>+4

ヴァン: 2D6+4 合計: 10 <5,1>+4

ヴァン: R12C10+6 合計: 11 <[5\_4]> = <5>+6

GM: 片方命中!あと5点!

ヴァン: (プレイヤー発言) フェンサーなのに一度もクリティカル出していないw

レンドル: これで、焼けば大丈夫でしょうww

トゥーズ: 処刑人さん!頼みます!

レンドル: いいんですか?じゃあ、クリバレでパキューンww

レンドル: 2D6+4 合計: 9 <3,2>+4

GM: ひらりっ!

アーシィ: なん...だと...

レンドル: もう弾ないww

ヴァン: >トゥーズ どうぞw

GM: しかしケンタは避けまくってもうフラフラだ!

正直、このケンタがここまで避けるとはGMも思わなかった訳です(笑)ホントにこのケンタ...やるわあ

**トウズ:** ええと・・・すみません、焼きます！ファイアボルトお！

**トウズ:** 2D6+6 合計:15 <3,6>+6

**GM:** ほいぬいた

**レンドル:** ファンブル以外だいじょうぶです！！ww

**トウズ:** R10C10+6 合計:9 <[2\_4]> = <3>+6

ケンタ:「ぐおおおおおおお・・・！！！」

**GM:** 火の妖精の魔法で、ケンタウロスはとうとう地に伏しました。

**トウズ:** 「そのしぶとさは念入りに焼いておかんとな・・・」

**ヴァン:** 「終わったな・・・。」

**レンドル:** 「まさかの展開でしたが・・・」

**アーシィ:** 「あの世とやらで悔いるといいよ」

**アル:** 「終わったか」

まあ、魔法で焼かれちゃ避けよう無いですよ～。強敵ケンタウロスを下した皆は、剥ぎ取りしながらエピソードに以降～。

・エピソード 人の愛 ～夢の道しるべは笑顔と共に～

**レンドル:** 「この銃は私が、ペンティーアさんに・・・返しておきましょう。」

ペンティーア:「おう。これにて依頼完了、だな」

**アーシィ:** 一目散にマシロの元へ行きます

**レンドル:** 「マシロちゃん・・・もう大丈夫ですよ。」

マシロ:「うう・・・ふええん・・・」二人に抱きつく

**アーシィ:** 「もう大丈夫だ」ぎゅっ

**レンドル:** 「コウくん・・・マシロちゃんをしっかりと抱き締めて・・・」

コウ:「マシロ・・・ばっかっ！心配したろ・・・」しっかりと抱きしめる

マシロ:「お兄ちゃん・・・お兄ちゃん・・・」

**アル:** >GM ゴブB真っ二つにしたのでアルって血まみれですか？

**GM:** >アル それでもいいよ～？

**アル:** >GM えwww まあそれはそれでRPLしてみるかwww

**アル:** 血まみれの状態で「おい、そこのガキ」っとコウを呼ぶ

**レンドル:** (プレイヤー発言) 悪鬼羅刹がいる・・・ww>アル

コウ:>アル 「え？あ・・・」アルを見たコウは、その姿を見て、何かを察します

**アル:** 「ガキ、これが殺し合いだ。もし誰かを殺すならこうなる覚悟はしとけ」

**アル:** >ヴァン 「ヴァン、先に宿に戻ってる」

**ヴァン:** >アル 「おっかないおっちゃんだな」

**レンドル:** 「あれは・・・夢にでますよ・・・きっと(ホリ)ww

コウ:>アル「あ、あのっ・・・ありがとう。俺、間違ってた！」

**アル:** 「……………」何も返事をせず宿へ戻る

**ヴァン:** 「コトリちゃんが気絶しなきゃいいけどな・・・。」

**アーシィ:** 「アルはああ言っているが、本当はいい奴だ。怖がらないでやってくれ」

コウ:「怖がるなんて・・・俺、感謝してるよ。大切なこと・・・教えてくれた」

**レンドル:** 「怖いお父さんができたと思うといいよ。」>コウ&マシロ

マシロ:「あれが・・・？パパ？」くりくりおめめを丸くする

アーシィ:「もしまたなにかあったら今度はあんなことをせず、私達の所に来い。力になろう。そして・・・また元気な顔を見せてね？」ぎゅっ

レンドル:時にGM、もちろん、ケンタウロスは生きてますよね？

GM:>レンドル ケンタ？うん・・・死んでます

レンドル:「残念、尋問できなかったかあ・・・」ペンチやノコギリをばいしますww

トウズ:>レンドル 見なかったことにしよう

GM:代わりに、こんがり焼かれたケンタウロスから、なにかがころっと落ちてきます

トウズ:(プレイヤー発言) 落ちてきたものは任せろー(ばりばりー

ヴァン:「どれどれ・・・」落ちたもの見てみます。

GM:鑑定やるなら達成値14

GM:[宝物鑑定判定](スカウト or セージ Lv+知力B+2D)

一同:(ころころ・・・)失敗！

レンドル:「これなんだと思います？ペンティーアさん」最終手段ww

ペンティーア:「あ？なんだこれ・・・いや！こいつは・・・」

ペンティーア:「お前等、お手柄だぜ・・・こいつは、“ラクシアーのお宝”に近づくためのアイテムだ」

トウズ:>ペンティーア 「なんですとぅ！」

レンドル:「おっ！それじゃあ、10億Gは無理でも・・・その・・・少しは」

GM:共有に玉の正体書いておいたよ～

#### 【人間の“愛”の宝玉】

ラクシアーのお宝を探す上で必要不可欠なアイテム。これは人間の愛を象徴し、どんな時でも手を取り合う、美しい感情を宿した玉。

アーシィ:(プレイヤー発言) 愛の宝玉か・・・

レンドル:(プレイヤー発言) 美しいww

トウズ:(プレイヤー発言) 8つつ揃えると願いがかなったり・・・

ヴァン:「……………これ、後いくつぐらい必要なんだ？」

ペンティーア:「ラクシアーのお宝を探す為には、人族の種族の何かしらの感情を宿した玉が必要らしい。可能性の話だったが、これで確定だな」

トウズ:10つつぐらい？

個数は秘密だぜい！まあ、冒険を重ねれば追々分かる・・・かも？

ヴァン:「なるほど、取りあえず一步前進か……………」

ペンティーア:「ああ。やっぱり、お前等を選んで良かったぜ！はっはっは！」

アーシィ:「まあ、一步進んでよかったってことだな！」

ヴァン:「となると、マシロちゃんの手柄でもあるか。」

レンドル:「コウくんの想いも・・・多少ゆがんでいましたが」

GM:マシロを助け、皆は大事なアイテムも入手した。

GM:お宝に近づく為の手段は確定したものの、疑問はまだまだ多くある。

GM:しかし、それはそれ。戦いを終えた皆は、コトリの待つ「桜舞うそよ風亭」で宴会を始める。

GM:ペンティーアはコウとマシロも誘うばかりか、当てのない二人に、ショーウィ・ガレオンで住み込みで働きながら、生活を援助する事を約束する。

GM:笑顔が溢れる「桜舞うそよ風亭」。空にたゆたうショーウィ・ガレオン。残された宝玉……………」

GM:皆の旅はまだまだ続く。続いたら、続く……………」

GM:……………はい！以上をもちまして、セッションを終了にしたいと思います！お疲れさまでした～！！！！！！

一同:お疲れさまでした～！！

こうして、GMペンタコスの初GMは終了！燃えたよ…燃え尽きたよ…じゃない！最後の仕事がまだでした！この後はリザルト&アフタートーク！

## ・リザルト発表&後日談！

**GM:**リザルト発表～！

経験点 1150 点 報酬 1068G(探索前にアイテム買った人はその分マイナス)

成長一回。名誉点11点(ダイスの結果)

**ヴァン:**>GM 初GMお疲れ様でした！

**アーシィ:**うわあ、続きやりてえええー！

**レンドル:**楽しかったです^^

**アル:**>GM 本当にお疲れ様でした～

**トゥーズ:**参加させて貰えて嬉しかったです！ 初セッションなんでちょっとドキドキでしたが

**GM:**いやもう、初GMでがむしゃらにやった感じですよ～

**ヴァン:**話は続くようですね、次回作もできれば参加させていただきます

**GM:**とりあえずごめんよ…2、3時間で終わるとか、ホントごめんよ wwwwww

**ヴァン:**いや、2、3時間で終わるとは思っていなかったからw

今回の反省点その2。時間かかり過ぎましたね～(汗)終わったの深夜二時とか…皆本当に遅くまで付き合ってくれて感謝でした(感涙)

**GM:**実はこのセッションフリーキャンペーン化を目論んでおりまして。次の構想が固まり次第、次回作を上げる予定です。

**アーシィ:**次回も参加したいですね！

**レンドル:**時間が合えば、是非参加したいですね^^

**GM:**いやー、NPC ばっか喋ったりとか RP 長すぎないかとか…ハラハラした wwwww

**アーシィ:**まあオンセはしょうがないですね…

**GM:**次回の卓の設立が決まったらまた告知します！お時間が合えば是非参加してくださいね！

**アル:**わかりました～

**アーシィ:**了解です。

**トゥーズ:**わかりましたー。次回募集見つけたらよろこんで参加させていただきます

**レンドル:**了解しました^^よろしくお願ひします。

**GM:**それから、この卓は数日空けておくので、やりたい RP や後日談があればご自由に。

**ヴァン:**「なんだって？」

**GM:**ちなみに、コトリにいたずらしたら、ペンティーアからメテオストライクとデスククラウドの合体魔法をもれなくプレゼント！

**ヴァン:**キャプテン・ペンティーア「この10億 G はお前たちに譲るぜ」とか？

**GM:**あくまでストーリーを曲げない程度でよろしく wwwwww

**レンドル:**「しばらく『そよ風亭』でバイトしよう…コック技能あるし…」

**ヴァン:**もう使ったのか？

**レンドル:**腕輪買いましたww

**ヴァン:**速いなw

**GM:**皆、遅くまで本当にありがとうね～！！

一同:お疲れさまでした～

(セッションから数日後…)

アーシィ:「そうだ、買いに行きたいものがあった！」(店を飛び出す)

こんな書き込みから、**アーシィ**の後日談が

アーシィ:…さて、小ネタはさむか

～アーシィの買い物後…～

アーシィ:「ああ…かわいいなあ…」(熊のぬいぐるみを購入、M サイズ)

アーシィ:ぎゅっ ゴロゴロ ゴロゴロ「ははははは…」

アーシィ:これが買い物後、泊まっている部屋で起きた光景である…

**アーシィ**は可愛い物好き！序盤で**トウズ**をもふもふしたがってたのもここに繋がってたんだね～。やっぱ凜としている人ほど可愛い物好きっていうギャップは…良いね！

~~~~~

#### ・編集後記

さてさて、セッション同様体当たりでやってみたりプレイ、如何だったでしょうか？

とりあえずこんな物で良いのだろうか…？ページ数とか、色々と一抹の不安はありますが…とりあえずこれでお許しください(汗)

にしても、GMとは本当に大変な物だと実感しましたね～。NPC のセリフ考えたり、プレイヤーの発言や行動に目を光らせたり、敵を動かしたり…PL やっている時は自分のキャラだけ気にしてればよかったですが、休まる暇が無いのなんの…仕事量が何倍もあるように感じました(滝汗)

まあ、その分、達成感も凄くありました。これは癖になりそうです。

それから、このセッションは同じ内容を別グループでもやっています。その際、探索ミッションを少々改良したものでやったりします。第一グループの皆さんに、この場を借りて謝罪を。ごめんなさいね(涙)

それから、感謝を。あの後、皆から成長報告を沢山頂いたり「次回も待ってます！」と激励のメッセージがあったり…よーし、ぺんた張り切っちゃうゾー？

最後に、このセッションに参加してもらった皆、GMをする際にアドバイスを頂いた諸先輩方々、そしてこのリプレイをここまで読んでくれたあなた。全てに感謝を！

ではでは、次回「水の行方」も、ご期待下さい～！

平成 25 年 3 月 28 日(木)

「初心者GMと行く <ラクシアのお宝>シリーズ」 GM ペンタコス